

「嗜好品と社会的意識および行動の変化に関する調査」報告書（速報版）

（調査票記載名「ライフスタイルと社会意識に関する調査」）

（公財）たばこ総合研究センター研究部

1. 調査概要

本調査は正式な名称を「嗜好品と社会的意識および行動の変化に関する調査」といい、社会や政治に対する価値観、及び社会経済的地位と、嗜好品などの飲食や余暇といったライフスタイルの関係性およびコロナ禍によるその変化を明らかにすることを目的とする。本調査の中でコロナ以前と現在（2022年1月）での嗜好品摂取や文化活動及び社会経済的地位の変化を質問することで、コロナ禍を通じたこれらの関係性の変化を明らかにするとともに、当財団が過去に実施した調査結果と比較することで、コロナ禍を通じた社会全体の変化についても明らかにしたいと考えている。調査は2022年1月から2月にかけて郵送調査で実施され、調査対象は2021年12月31日を起算日として、20～69歳の日本国籍を有する男女5,400名となっている。抽出条件に日本国籍を有することが含まれている理由は、ひとつに調査票が日本語版のみであること、そして本調査では政治的な行動や意見について質問していることから選挙権を有していなければ回答困難な部分があること、さらにこれに伴ってサンプリング台帳が原則として選挙人名簿（選挙人名簿の閲覧許可が得られなかった地域においては住民基本台帳で代用）であることに由来する。サンプリングは層化三段無作為抽出で行われ、一段目が市区町村、二段目が町丁目、三段目が個人となっている。具体的には一段目の抽出において全国の自治体を8地域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州沖縄）×4人口規模（政令市特別区、人口15万人以上の市部、人口15万人未満の市部、郡部）の合計32層に分け、各層の人口比率に基づいて300地点をランダムに抽出した。二段目と三段目に関しては抽出された市区町村それぞれにおいて3町丁目を、抽出された町丁目ごとに6名をそれぞれランダムに抽出することで、 $300 \times 3 \times 6 = 5,400$ サンプルの設計になっている。なお、調査の実施は株式会社日本リサーチセンターに委託した。調査の結果、有効回収数の速報値は2907件であり、有効回収率はこれも速報値ながら53.8%に達している。調査票は全部で12ページであり、途中未回収の方へのはがきによる回答依頼を2回実施している他、謝礼としてクオカード1,000円分と記入用のボールペンを調査票と同時に先渡ししている。

本稿では本格的な分析に伴うデータのクリーニング前の速報値ではあるものの、各質問項目に対する回答分布を一通り示すとともに、一部の変数については簡単な基礎分析の結果を公表する。また、末尾には参考資料として実際に使用した調査票を付す。

2. 度数分布

最初にすべての質問項目についての度数分布を確認しておく。掲載は調査票の問番号の順に行うこととし、質問の形式に応じて度数分布表もしくはヒストグラムによる回答分布の確認を行う。問1は0～10までの数字で回答を求めた幸福度（図1）である。数字が大きいほど幸せであることを意味している。平均値は6.74、標準偏差は1.98であり、ヒストグラムの形状と併せてみると5～8の間に特に多くの回答が集中していることがわかる。また4以下の回答は累積でも10%程度と自らを不幸であると考えてる人は比較的少ないことがわかる。同じ図1の右側には同様のスケールで回答を求めた階層帰属意識のヒストグラムを配している。これは現在の日本社会全体を数字が高いほど「上」とする0～10の11層に分けたときに自分自身がどこに入と思うかを尋ねたものである。こちらは平均が5.29、標準偏差が1.76と幸福感よりも中央寄りの分布をしていることがわかる。3～7の回答が比較的多いが中でも5という回答が抜きんで多いのが特徴である。幸福感に比べると、10や9の様にきわめて高い値も小さい値と同様に回答が少ない点が異なっている。

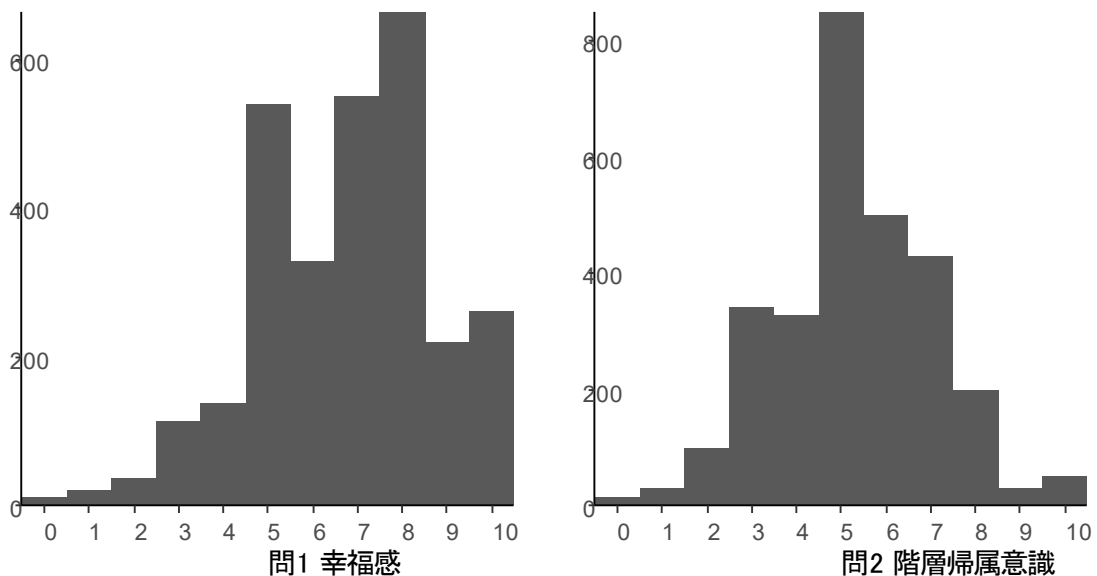


図1. 幸福感と階層帰属意識

問3は満足度（図2）でA 生活全般、B 友人関係、C 仕事の内容（有職者のみ回答）、D 現在の居住地域、E 自分の収入、F 家族全体の収入（世帯収入）、G 趣味や余暇の過ごし方という7項目について、問1,2と同じ0～10の11段階で数字が大きいほど満足していることを示すというスケールで回答を求めている。Aの生活全般から順に平均値と標準偏差は6.22と2.01、B 友人関係は6.32と2.22、C 仕事の内容は5.78と2.20、D 居住地域は6.62と2.17、E 自分の収入は他より少し平均が低くてばらつきがある結果で5.10と2.36、Fの世帯収入は5.49と2.31、G 趣味や余暇の過ごし方は5.94と2.31となっていた。生活全般や友人関係、居住地域に対する満足度は相対的に高く、ばらつきも大きくない一方で個人収入と世帯収入は相対的に平均が低くばらつきもやや大きい結果になっていた。ヒストグラムの形状で見ても、個人収入と世

帯収入のグラフは他の5つに比べて分布の頂点がやや左寄り（他が真ん中よりやや右寄りなので、結果的に真ん中付近に頂点があるが）になっていることが見て取れる。

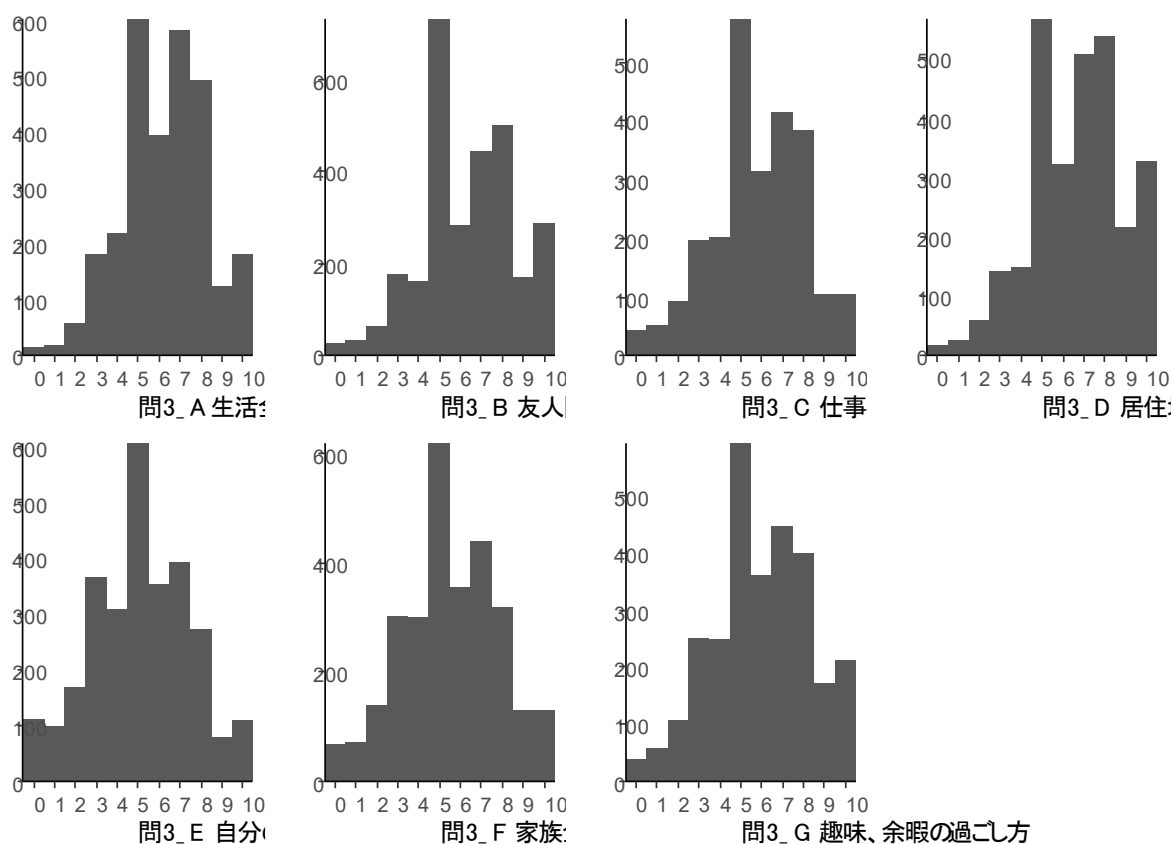


図 2. 満足度

問 4 は信頼感である。表 3 にあるように A マスメディアから J 自分と異なる国籍の人に至るまでのそれぞれについて、どの程度信頼しているかを 5 段階で質問している。「どちらともいえない」や「ある程度信頼している」という回答が多い項目が多くを占めるものの、A マスメディアと B 中央官庁については「あまり信頼していない」にも比較的多く（20%以上）の回答が集まっており、さらに D 政治家にいたっては「全く信用していない」が 18.9%、「あまり信頼していない」が最頻値の 39.9%をそれぞれ占めるほど信頼感が低く、現代日本社会における政治不信が改めて如実に示される結果となっている。また、I 自分と異なる宗教の人に対する信頼感も政治家に次いで低くなっており、あまり宗教になじみのない日本社会の様子が映し出されているとみられる。ただしこれは 2021 年 1 月の調査結果であり、2022 年夏以降に表面化した旧統一教会関係のトピックはこの結果に影響していないことは注意しておく必要があるだろう。

表 3. 信頼感

		全く 信頼して いない	あまり 信頼して いない	どちら とも いえない	ある程度 信頼 している	とても 信頼 している	合計	欠 損 値
A. マスメディア	度数	153	669	906	1118	44	2890	17
	有効%	(5.3)	(23.1)	(31.3)	(38.7)	(1.5)	(100)	
B. 中央官庁	度数	152	648	1328	723	32	2883	24
	有効%	(5.3)	(22.5)	(46.1)	(25.1)	(1.1)	(100)	
C. 地方自治体	度数	77	483	1214	1040	67	2881	26
	有効%	(2.7)	(16.8)	(42.1)	(36.1)	(2.3)	(100)	
D. 政治家	度数	545	1154	972	212	8	2891	16
	有効%	(18.9)	(39.9)	(33.6)	(7.3)	(0.3)	(100)	
E. 学校	度数	82	400	1280	1046	66	2874	33
	有効%	(2.9)	(13.9)	(44.5)	(36.4)	(2.3)	(100)	
F. 学者・研究者	度数	47	249	1196	1247	139	2878	29
	有効%	(1.6)	(8.7)	(41.6)	(43.3)	(4.8)	(100)	
G. 近所の人	度数	82	344	1366	1014	83	2889	18
	有効%	(2.8)	(11.9)	(47.3)	(35.1)	(2.9)	(100)	
H. 個人的な友人・知人	度数	20	82	525	1702	564	2893	14
	有効%	(0.7)	(2.8)	(18.1)	(58.8)	(19.5)	(100)	
I. 自分と異なる 宗教の人	度数	398	501	1729	239	20	2887	20
	有効%	(13.8)	(17.4)	(59.9)	(8.3)	(0.7)	(100)	
J. 自分と異なる 国籍の人	度数	112	375	1950	430	25	2892	15
	有効%	(3.9)	(13.0)	(67.4)	(14.9)	(0.9)	(100)	

表 4 では各種の社会意識についての回答分布を示している。A から M のそれぞれの質問に対して「そう思う」から「そう思わない」までの 5 段階での回答を得ている。A～C は格差と平等に関する意見であり、A と C は「そう思う」ほど平等主義的、B は逆に「そう思う」ほど競争主義的な意見となっている。詳しい分析にはまだ至っていないものの、恵まれない人への福祉の充実が求めつつも、完全に結果を平等にするというよりは機会の平等を重視し、競争の自由はある程度守られるべきであるとする傾向がみられる。D の結果からは社会のためになにかをしたいと考える人が比較的多いことがわかった。E～I は政治に関する意識であり、政治的有効性感覚と呼ばれる、市民が民主主義を実感しているか否かを測定している項目群である。E と I の 2 項目は「そう思わない」ほど、F, G, H の 3 項目は「そう思う」ほど民主主義を実感していることを示している。回答は必ずしも明確に一貫性を示してはいないが、投票行動は有効な手段であると考えつつも、実際に国の政治に国民の意見や希望はあまり反映されていないと感じているが、だからといって政治をやりたい人に任せておけばよいとは思わず、投票行動を含めた政治参加の意義は感じているという結果が読み取れる。

J は問 4 で個別に聞いた信頼感のより一般的な質問であるが、中間回答が最頻値ではあるものの、分布の形状は「あまりそう思わない」側に少し偏っている。K は多様性や寛容性に関わる質問で、多様な人がいることを望ましいと考える傾向が明らかになった。L の回答分布は地域の絆をあまり感じていないことを示しており、M の項目からは、多くの人が自分のことはある程度自由に決められると感じていることがわかった。

表 4. 社会意識

		そう 思わない	あまり そう 思わない	どちら とも いえない	やや そう思う	そう思う	合計	欠 損 値
A. 政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、 恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	度数 有効%	106 (3.7)	321 (11.1)	871 (30.1)	1020 (35.3)	571 (19.8)	2889 (100)	18
B. チャンスが平等に与えられるなら、 競争で貧富の差がついてもしかたがない	度数 有効%	146 (5.1)	384 (13.3)	1035 (35.9)	1036 (35.9)	286 (9.9)	2887 (100)	20
C. 競争の自由をまもるよりも、 格差をなくしていくことの方が大切だ	度数 有効%	112 (3.9)	501 (17.4)	1308 (45.4)	745 (25.9)	216 (7.5)	2882 (100)	25
D. 社会からなにかをしてもらうよりも 社会のためになにかをしたい	度数 有効%	53 (1.8)	267 (9.3)	1446 (50.1)	891 (30.9)	227 (7.9)	2884 (100)	23
E. 政治のことは難しすぎて 自分にはとても理解できない	度数 有効%	216 (7.5)	709 (24.6)	989 (34.3)	754 (26.1)	217 (7.5)	2885 (100)	22
F. 国会議員選挙のときに、私たち一般国民が投票する ことは、国の政治に影響を及ぼしていると思う	度数 有効%	200 (6.9)	630 (21.8)	697 (24.1)	962 (33.3)	399 (13.8)	2888 (100)	19
G. 私たち一般国民のデモや陳情、請願は、 国の政治に影響を及ぼしていると思う	度数 有効%	270 (9.4)	912 (31.6)	1016 (35.2)	597 (20.7)	92 (3.2)	2887 (100)	20
H. 私たち一般国民の意見や希望は、 国の政治に反映されていると思う	度数 有効%	499 (17.2)	1166 (40.3)	907 (31.4)	293 (10.1)	28 (1.0)	2893 (100)	14
I. 政治のことはやりたい人に任せておけばよい	度数 有効%	608 (21.0)	937 (32.4)	963 (33.3)	288 (10.0)	94 (3.3)	2890 (100)	17
J. 一般的に言って、ほとんどの人は信頼できる	度数 有効%	272 (9.4)	761 (26.4)	1360 (47.2)	442 (15.3)	49 (1.7)	2884 (100)	23
K. 違った考え方をもった人がたくさんいる方が 社会にとって望ましい	度数 有効%	67 (2.3)	217 (7.5)	1200 (41.5)	1071 (37.0)	338 (11.7)	2893 (100)	14
L. 近所の人たちは強いきずなで結ばれている	度数 有効%	404 (14.0)	899 (31.1)	1211 (41.9)	339 (11.7)	40 (1.4)	2893 (100)	14
M. 私の生き方は、おもに自分の考えで 自由に決められる	度数 有効%	82 (2.8)	352 (12.2)	922 (31.8)	1161 (40.1)	378 (13.1)	2895 (100)	12

表 5 では投票行動や市民運動への参加といった社会活動への参加頻度を 5 段階で質問した結果を示している。多くの回答者が A 投票行動については「よくしている」もしくは「いつもしている」と回答しているが、実際の投票率とは開きがあることから、こうした調査に回答しない人たちと選挙の時に投票に行かない人たちはある程度重複する傾向があることが示唆される。B 市民運動と C ボランティアについては半数近くの人が「したことがない」という結果であった。D 募金や寄付についても B,C ほどではないが活動頻度はあまり高くなかった。

表 5. 社会活動

		したこと がない	めったに しない	ときどき している	よく している	いつも している	合計	欠損値
A. 国政選挙や自治体選挙 の際の投票	度数 有効%	132 (4.6)	318 (11.0)	517 (17.8)	632 (21.8)	1302 (44.9)	2901 (100)	6
B. 市民運動への参加	度数 有効%	1424 (49.3)	990 (34.2)	382 (13.2)	69 (2.4)	26 (0.9)	2891 (100)	16
C. ボランティア、NPO、 NGO 活動への参加	度数 有効%	1303 (45.0)	1050 (36.3)	409 (14.1)	79 (2.7)	53 (1.8)	2894 (100)	13
D. 募金や寄付	度数 有効%	236 (8.1)	953 (32.9)	1370 (47.3)	236 (8.1)	102 (3.5)	2897 (100)	10

表 6 は問 7 で質問した現在（2020 年～）の文化活動の回答分布である。A のスポーツから G 図書館に行くまでの比較的日常的な文化活動についての活動頻度を 5 段階で質問したものである。

未だコロナ禍が完全には収束しない中ということもあり、どの項目も活動頻度はかなり低くなっている。

表 6. 現在の文化活動①

		最近二年 はして いない	年に数回	月に数回	週に数回	ほとんど 毎日	合計	欠 損 値
A. スポーツをする	度数	1331	593	460	400	93	2877	30
	有効%	(46.3)	(20.6)	(16.0)	(13.9)	(3.2)	(100)	
B. カラオケ、ボウリング	度数	2230	524	115	14	2	2885	22
	有効%	(77.3)	(18.2)	(4.0)	(0.5)	(0.1)	(100)	
C. 小説や歴史の本を読む	度数	1159	850	449	260	161	2879	28
	有効%	(40.3)	(29.5)	(15.6)	(9.0)	(5.6)	(100)	
D. スポーツ新聞、 女性週刊誌をよむ	度数	1492	795	357	159	80	2883	24
	有効%	(51.8)	(27.6)	(12.4)	(5.5)	(2.8)	(100)	
E. 宝くじを買う	度数	1786	867	157	65	10	2885	22
	有効%	(61.9)	(30.1)	(5.4)	(2.3)	(0.3)	(100)	
F. パチンコ、麻雀、ギャンブル (競馬など)に行く	度数	2422	208	176	68	9	2883	24
	有効%	(84.0)	(7.2)	(6.1)	(2.4)	(0.3)	(100)	
G. 図書館に行く	度数	2099	512	212	57	6	2886	21
	有効%	(72.7)	(17.7)	(7.3)	(2.0)	(0.2)	(100)	

次の問 8 (表 7) も同じく現在の文化活動の頻度であるが、こちらは一般的にそれほど高頻度で行われない活動であるため、同じ 5 段階ではあるものの選択肢の内容が異なり、活動頻度が低いことを想定した選択肢になっている。こちらについてもやはり表 6 の結果と同じく活動頻度はかなり低い(「最近二年はしていない」が多い)結果となっている。

表 7. 現在の文化活動②

		最近二年 はして いない	最近二年 で一回 くらい	年に一回 くらい	年に数回	月に一回 以上	合計	欠 損 値
A. 美術館や博物館に行く	度数	1970	337	297	260	23	2887	20
	有効%	(68.2)	(11.7)	(10.3)	(9.0)	(0.8)	(100)	
B. 劇やミュージカルをみる、 映画館へ行く	度数	1579	352	379	512	64	2886	21
	有効%	(54.7)	(12.2)	(13.1)	(17.7)	(2.2)	(100)	
C. クラシックの音楽会、 オペラ、バレエに行く	度数	2610	94	109	65	6	2884	23
	有効%	(90.5)	(3.3)	(3.8)	(2.3)	(0.2)	(100)	

表の 6,7 と対照をなすのが次の表 8,9 の内容である。こちらはコロナ禍以前の 2 年間(2018～19 年)についての文化活動の頻度である。最も頻度が低い選択肢の内容が、現在の場合は「最近二年はしていない」であるのに対して、コロナ禍以前についての質問であるため「その二年はしていない」に代わっている他は選択肢の設計にも違いはない。表 8 を見ると、多くの項目においてコロナ禍の現在に比べるとやや活動頻度が高い結果となっているが、A スポーツや B カラオケ、ボウリング、G 図書館といった他者と接する機会が多かったり、公共の場所に出かけたり

といったコロナ禍において抑制されてきた行動を伴う文化活動では違いがより顕著であった。

同様に表 9 の結果を見ると、こちらはどれも人の集まる公共の場所に出かける類の活動であることから活動頻度はコロナ禍の現在に比べると高くなっていることが読み取れる。

表 8. コロナ禍前の文化活動①

		その二年 はして いない	年に数回	月に数回	週に数回	ほとんど 毎日	合計	欠 損 値
A. スポーツをする	度数 有効%	999 (34.7)	714 (24.8)	547 (19.0)	493 (17.1)	127 (4.4)	2880 (100)	27
B. カラオケ、ボウリング	度数 有効%	1476 (51.1)	1014 (35.1)	344 (11.9)	47 (1.6)	6 (0.2)	2887 (100)	20
C. 小説や歴史の本を読む	度数 有効%	1204 (41.8)	824 (28.6)	449 (15.6)	248 (8.6)	156 (5.4)	2881 (100)	26
D. スポーツ新聞、 女性週刊誌をよむ	度数 有効%	1503 (52.1)	760 (26.3)	392 (13.6)	146 (5.1)	84 (2.9)	2885 (100)	22
E. 宝くじを買う	度数 有効%	1672 (57.9)	961 (33.3)	179 (6.2)	63 (2.2)	11 (0.4)	2886 (100)	21
F. パチンコ、麻雀、ギャンブル (競馬など)に行く	度数 有効%	2349 (81.4)	216 (7.5)	210 (7.3)	98 (3.4)	11 (0.4)	2884 (100)	23
G. 図書館に行く	度数 有効%	1888 (65.4)	614 (21.3)	299 (10.4)	75 (2.6)	12 (0.4)	2888 (100)	19

表 9. コロナ禍前の文化活動②

		その二年 はして いない	二年に 一回 くらい	年に一回 くらい	年に数回	月に一回 以上	合計	欠 損 値
A. 美術館や博物館に行く	度数 有効%	1632 (56.5)	354 (12.3)	401 (13.9)	465 (16.1)	35 (1.2)	2887 (100)	20
B. 劇やミュージカルをみる、 映画館へ行く	度数 有効%	1185 (41.0)	296 (10.3)	456 (15.8)	824 (28.5)	126 (4.4)	2887 (100)	20
C. クラシックの音楽会、 オペラ、バレエに行く	度数 有効%	2424 (84.0)	144 (5.0)	175 (6.1)	124 (4.3)	17 (0.6)	2884 (100)	23

次の表 10 と 11 で示すのは嗜好品の摂取や飲食サービスの利用といったライフスタイルに関わる項目である。A コーヒーから J 出前、フードデリバリーサービスまでの様々な嗜好品やサービスを利用する（飲んだり食べたりする）頻度を「全く利用しない」から「とてもよく利用する」までの 7 段階で質問している。表 10 で示しているのはコロナ禍の現在（2020 年～）における利用動向、表 11 はコロナ禍前の 2 年（2018～19 年）の動向を示す。A コーヒー、B お茶、C スイーツ・お菓子は全体として利用頻度が高く、D お酒と F サプリメントは回答が分散している。E たばこは圧倒的に「全く利用しない」人が多いという特徴がある。G～I の外で買ってくる、もしくは外に食べに行くという飲食スタイルはどれも「時々利用する」という人が多いが、J 出前、フードデリバリーサービスについては動向が異なり、「全く利用しない」人が多数であった。

表 10. 現在のライフスタイル（嗜好品・飲食）

		全く利用 しない	めったに 利用 しない	あまり 利用 しない	どちら とも いえない	時々 利用する	よく 利用する	とても よく 利用する	合計	欠 損 値
A. コーヒー	度数	216	184	120	48	433	677	1214	2892	15
	有効%	(7.5)	(6.4)	(4.1)	(1.7)	(15.0)	(23.4)	(42.0)	(100)	
B. お茶 (紅茶やハーブティー含む)	度数	217	195	169	96	599	705	904	2885	22
	有効%	(7.5)	(6.8)	(5.9)	(3.3)	(20.8)	(24.4)	(31.3)	(100)	
C. スイーツ・お菓子	度数	108	159	202	131	811	758	721	2890	17
	有効%	(3.7)	(5.5)	(7.0)	(4.5)	(28.1)	(26.2)	(24.9)	(100)	
D. お酒	度数	792	345	224	83	543	364	536	2887	20
	有効%	(27.4)	(12.0)	(7.8)	(2.9)	(18.8)	(12.6)	(18.6)	(100)	
E. たばこ	度数	2193	36	20	20	50	174	401	2894	13
	有効%	(75.8)	(1.2)	(0.7)	(0.7)	(1.7)	(6.0)	(13.9)	(100)	
F. サプリメント	度数	1258	305	189	89	434	300	313	2888	19
	有効%	(43.6)	(10.6)	(6.5)	(3.1)	(15.0)	(10.4)	(10.8)	(100)	
G. カップ麺・ インスタント麺	度数	188	332	332	149	1275	447	171	2894	13
	有効%	(6.5)	(11.5)	(11.5)	(5.1)	(44.1)	(15.4)	(5.9)	(100)	
H. 外食サービス	度数	235	282	311	121	1249	490	200	2888	19
	有効%	(8.1)	(9.8)	(10.8)	(4.2)	(43.2)	(17.0)	(6.9)	(100)	
I. スーパーやコンビニの 弁当、総菜	度数	115	260	308	145	1213	582	271	2894	13
	有効%	(4.0)	(9.0)	(10.6)	(5.0)	(41.9)	(20.1)	(9.4)	(100)	
J. 出前、 フードデリバリーサービス	度数	1362	556	339	89	432	76	40	2894	13
	有効%	(47.1)	(19.2)	(11.7)	(3.1)	(14.9)	(2.6)	(1.4)	(100)	

表 11. コロナ禍前のライフスタイル（嗜好品・飲食）

		全く 利用して いなかった	めったに 利用して いなかった	あまり 利用して いなかった	どちら とも いえない	時々利用 していた	よく利用 していた	とても よく利用 していた	合計	欠 損 値
A. コーヒー	度数	237	139	123	56	453	677	1201	2886	21
	有効%	(8.2)	(4.8)	(4.3)	(1.9)	(15.7)	(23.5)	(41.6)	(100)	
B. お茶 (紅茶やハーブティー含む)	度数	242	158	165	128	565	746	879	2883	24
	有効%	(8.4)	(5.5)	(5.7)	(4.4)	(19.6)	(25.9)	(30.5)	(100)	
C. スイーツ・お菓子	度数	137	139	189	151	821	777	661	2875	32
	有効%	(4.8)	(4.8)	(6.6)	(5.3)	(28.6)	(27.0)	(23.0)	(100)	
D. お酒	度数	816	261	191	79	554	397	572	2870	37
	有効%	(28.4)	(9.1)	(6.7)	(2.8)	(19.3)	(13.8)	(19.9)	(100)	
E. たばこ	度数	2142	38	17	24	66	173	414	2874	33
	有効%	(74.5)	(1.3)	(0.6)	(0.8)	(2.3)	(6.0)	(14.4)	(100)	
F. サプリメント	度数	1333	285	198	94	437	258	257	2862	45
	有効%	(46.6)	(10.0)	(6.9)	(3.3)	(15.3)	(9.0)	(9.0)	(100)	
G. カップ麺・ インスタント麺	度数	225	318	301	201	1231	434	164	2874	33
	有効%	(7.8)	(11.1)	(10.5)	(7.0)	(42.8)	(15.1)	(5.7)	(100)	
H. 外食サービス	度数	238	215	200	120	1155	663	286	2877	30
	有効%	(8.3)	(7.5)	(7.0)	(4.2)	(40.1)	(23.0)	(9.9)	(100)	
I. スーパーやコンビニの 弁当、総菜	度数	162	276	280	188	1180	567	229	2882	25
	有効%	(5.6)	(9.6)	(9.7)	(6.5)	(40.9)	(19.7)	(7.9)	(100)	
J. 出前、 フードデリバリーサービス	度数	1519	500	276	111	389	54	31	2880	27
	有効%	(52.7)	(17.4)	(9.6)	(3.9)	(13.5)	(1.9)	(1.1)	(100)	

一方、表 11 で示したコロナ禍前（2018～19 年）の動向について確認すると、J 出前、フードデリバリーサービスの利用頻度が現在よりも少し低い傾向がみられる程度で、文化活動に比べるとそれほど大きな違いはみられなかった。個人の行動変化については詳細な分析を待つ必要があるものの、飲食に関わるライフスタイルは必ずしも他者と共に行動する必要がないために、コロナ禍の影響はそれほど大きくなかったと言えるかもしれない。

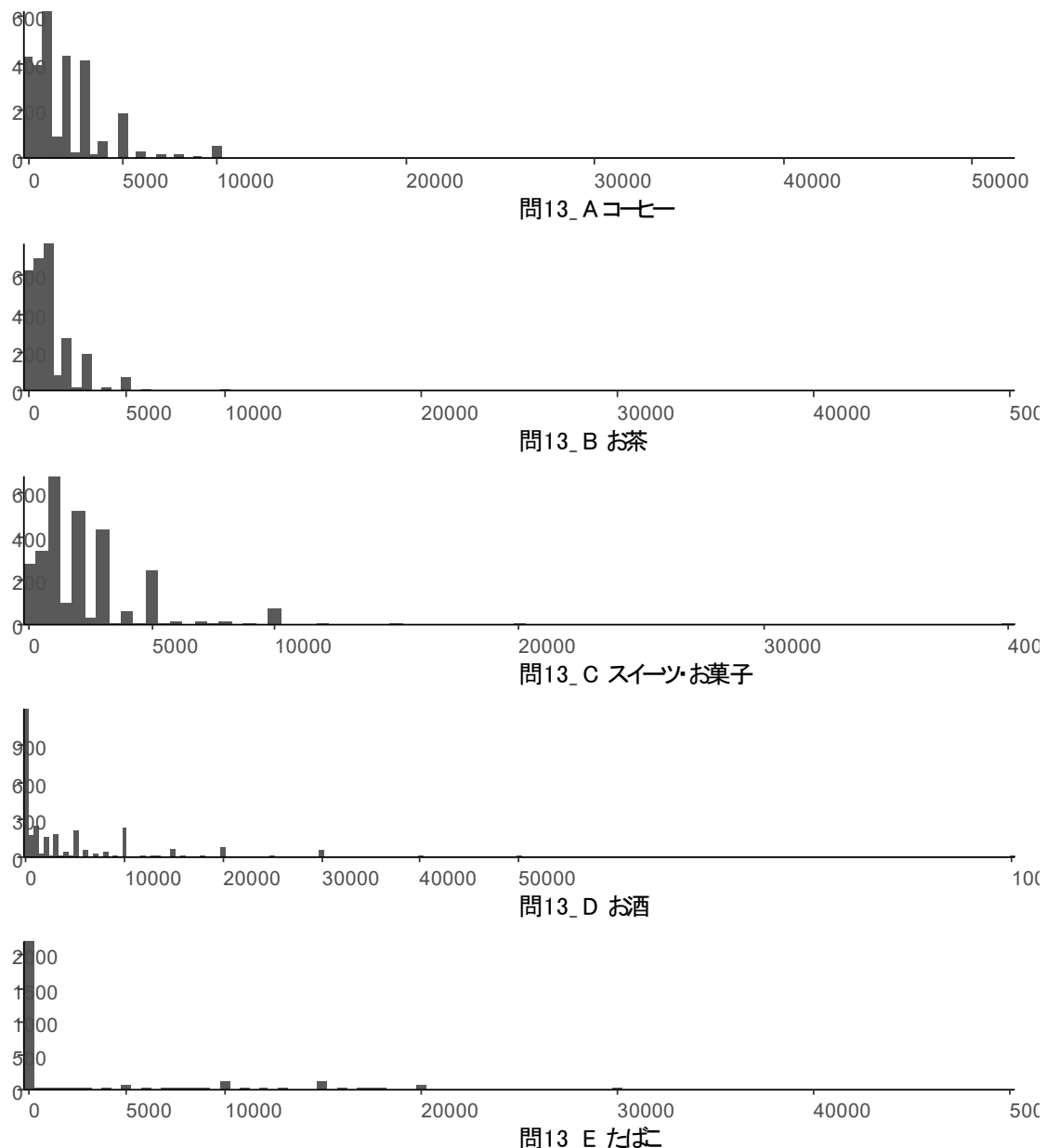


図 12. 現在の嗜好品消費金額 (1 カ月平均)

続けて確認するのは図 12 と 13 に示す現在 (2020 年～) における嗜好品や飲食サービスへの消費金額である。これは平均して 1 カ月に回答者個人がそれぞれの嗜好品や飲食サービスに消費する金額を実数で回答するよう求めている。A コーヒーの平均値は 2046.06, 標準偏差は 2574.74 であり, 95%以上は 5,000 円以下であった。B お茶は平均値が 1169.28, 標準偏差が 1704.64, コーヒーよりは消費金額が安い傾向にあり, 90%以上が 3,000 円以下である。C スイーツ・お菓子は平均値が 2214.46, 標準偏差が 2405.36, コーヒーと同じく 95%以上は 5,000 円以下である。D お酒は平均値が 3887.59, 標準偏差が 7390.67 と平均値も標準偏差もコーヒーなどに比べて高い数値を示している。まったくお酒を飲まない人も相当数いるために, 消費金額 0 円という回答も約 40%を占める一方で 5,000 円を超える回答も 20%以上存在して

いる。E たばこは平均値が 2730.78, 標準偏差が 6214.28 であり, お酒以上にたばこを吸わない人が多いため, 利用頻度で見ても中間の回答が極端に少ないこともあり, 消費金額もたばこの場合 0 円が比較的多額かに二分される傾向がある。80%近い人が消費金額 0 円となっている一方で, 15,000 円という回答が 4.5%みられている。

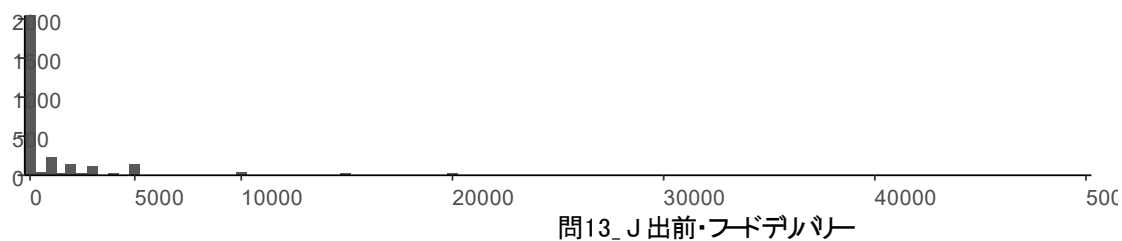
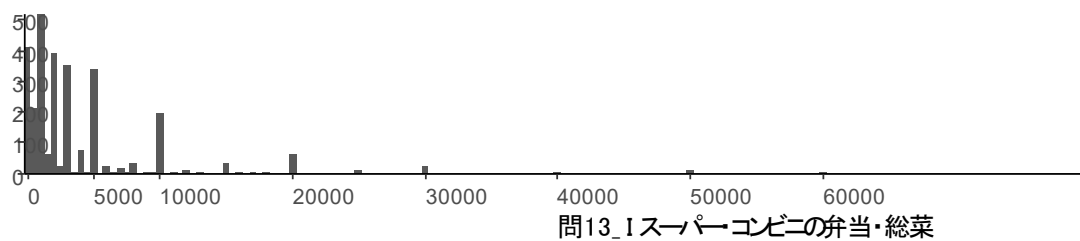
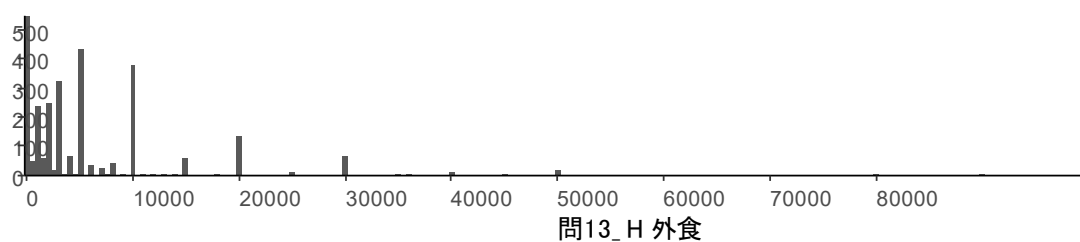
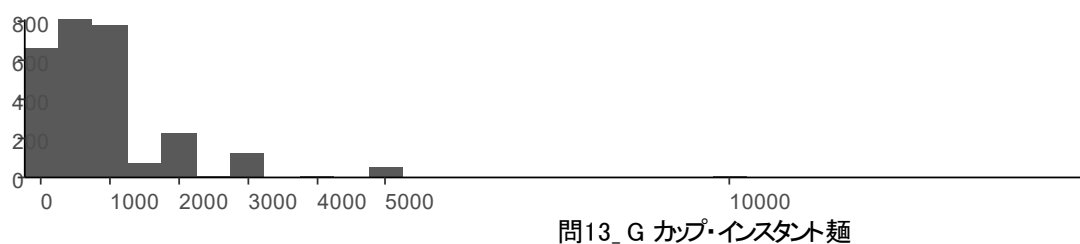
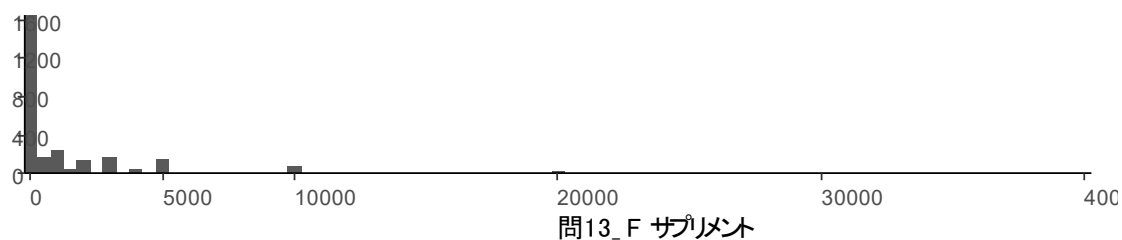


図 13. 現在のサプリ, 飲食サービス消費金額 (1 カ月平均)

スペースの都合上消費金額の分布は 2 つの図に分かれているが, 後半の図 13 では F サプリメント以降の消費金額を示している。F サプリメントの平均値は 1540.67, 標準偏差は 3509.23 であり, 消費金額 0 円という回答が 60%近くを占めている。消費金額の多い人はそれほど多くなく, 5,000 円以上を消費しているのは 10%未満に過ぎない。G カップ麺・インスタント麺は単

価がそれほど高くないこともあり平均値が 983.30, 標準偏差が 1263.45 である。消費金額 0 円という回答は 15% 強に過ぎないが、全体の 80% は 1,000 円以下で他の項目に比べるとばらつきが小さい。H 外食は平均値が 6135.23, 標準偏差が 9175.79 と共に他の項目に比べて高い。45% 程度は 5,000 円以上を消費していた。I の弁当や総菜は平均値が 3811.27, 標準偏差が 5907.55 であり、70% は 3,500 円以下である一方、10% 強は 10,000 円以上消費している。J 出前は 70% 以上が 0 円で、平均値 882.38, 標準偏差 2383.82 とばらつきだけ大きい。

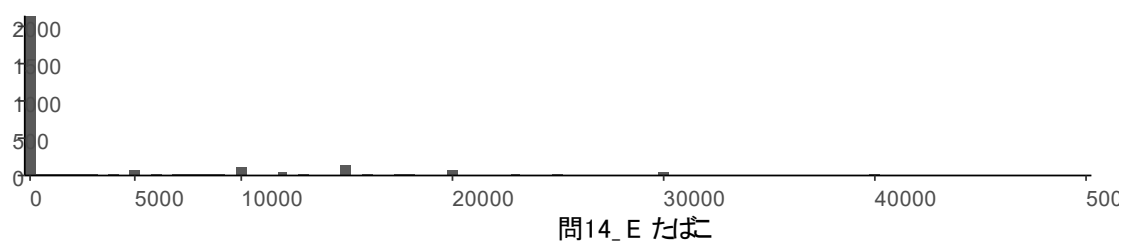
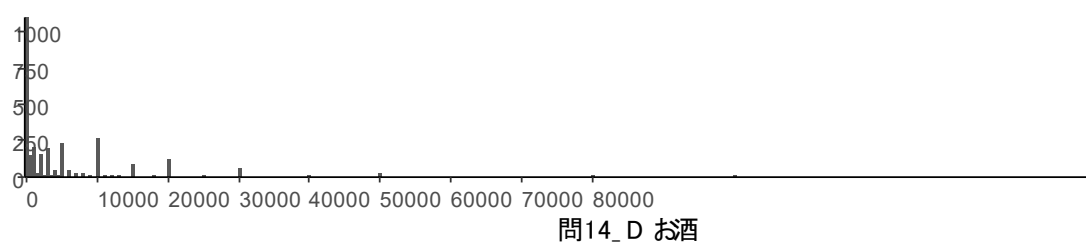
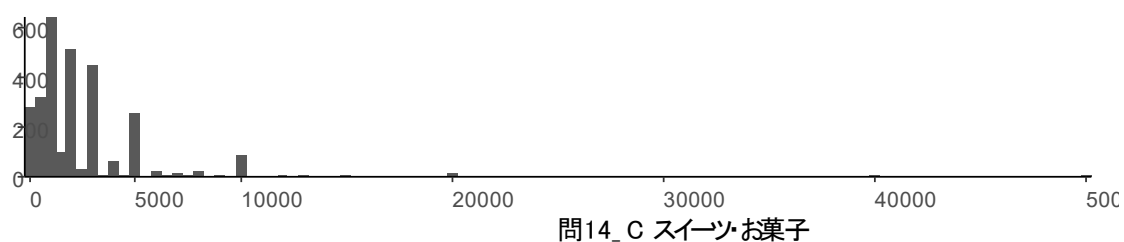
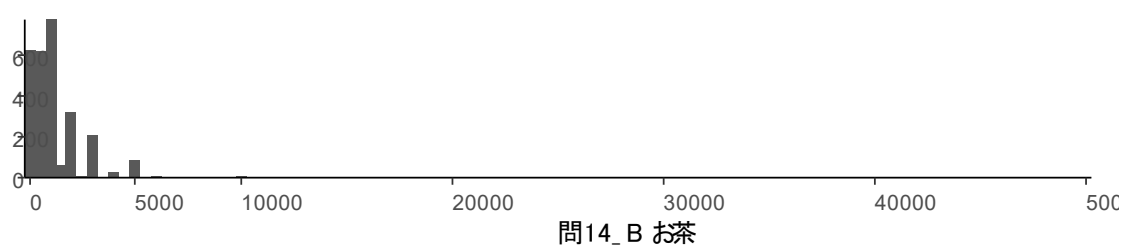
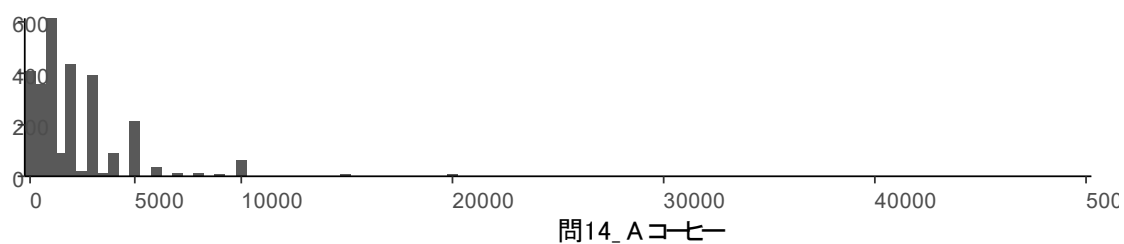


図 14. コロナ禍前の嗜好品消費金額 (1 カ月平均)

図 14 は図 12 と対応している。図 12 が現在 (2020 年～) の嗜好品への消費金額であるのに対して、この図 14 はコロナ禍以前の 2 年間 (2018～19 年) での消費金額である。A コーヒーは

平均値 2163.15, 標準偏差 2583.25 とわずかであるがコロナ禍前の方がコーヒーへの消費金額は多い傾向であった。分布の形状にはそれほど大きな変化はなかった。B お茶の平均値は 1256.17, 標準偏差は 1855.03 で、やはりコーヒーに比べて消費金額は少なく、コロナ禍を通じて目立った変化もみられない。C スイーツ・お菓子は平均値 2346.00, 標準偏差 2735.97 であり、これも分布に目立った変化はない。D お酒はこれまでの3つとは異なり、平均値 4980.26, 標準偏差が 9621.55 と平均・標準偏差共に現在よりも高い数値になっている。この変化の原因は全く消費しない人が約 40%と変化がみられないにもかかわらず、現在は約 20%であった 5,000 円以上消費する人の割合がコロナ禍以前は 30%を超えていたことにある。つまり、お酒を飲む人の割合に変化はないものの、普段からお酒を飲む人がコロナ禍を通じてお酒に消費する金額が減ったという変化があったことが明らかになったのである。続いて E たばこは平均値が 2998.61, 標準偏差が 6615.10 であり、分布に明確な変化はなかった。

続けて図 15 についても確認していこう。こちらは図 13 と対応する形になっている。図 12, 14 の組み合わせと同じく、図 13 では現在のサプリメントや飲食サービスへの消費金額の分布を示していたのに対して、図 15 はコロナ禍以前の 2 年間（2018～19 年）の消費金額の分布を表している。F サプリメントは平均値 1477.11, 標準偏差は 3672.01 であり、分布にもそれほど変化はみられない。G カップ麺・インスタント麺の平均値は 1067.71, 標準偏差は 1593.35 であり、分布にもそれほど大きな変化はみられない。H 外食は平均値 8157.31, 標準偏差 14012.54 と平均値が 2,000 円ほどコロナ禍を通じて低下していることがわかる。分布を見ても 5,000 円以上を消費しているのがコロナ禍前は 50%を超えており、約 45%であった現在とは少しではあるが異なっている。I 弁当や総菜は平均値 3705.99, 標準偏差 5800.02 であり、それほど大きな変化はない。最後に J 出前の分布を確認すると、平均値 775.77, 標準偏差 2364.57 であり、ばらつきはそれほど変化がないものの、平均値はコロナ禍を通じて 100 円ほど上昇していることがわかる。コロナ禍を経た現在でも 70%ほどが全く消費していなかったが、コロナ禍前は 75%以上の人びとが出前やフードデリバリーサービスに対して消費していなかったことがわかった。

これらの結果から、やはり変化が大きいのは飲酒と外食であり、どちらもコロナ禍の中で感染拡大の原因となり得ることが指摘され、休業要請や時短営業といった政策がライフスタイルにピンポイントでの影響を与えていたことがわかった。しかし、コロナ禍を通じて大きく話題にもなったフードデリバリーサービスや従来からの出前の利用は、お酒や外食サービスの利用の落ち込みに比べるとそれほど大きな伸びは無く、必ずしも全国的、国民的な影響は与えられていないことがわかった。さらに、コーヒーやお茶といった各家庭において利用されることも十分に多い嗜好品や休業要請や時短営業の影響をそれほど受けない飲食スタイルについてはコロナ禍を通じてもライフスタイルにそれほど大きな影響があったとはみなせなかった。つまりコロナ禍は飲食に関わるライフスタイル全体に影響を与えたというよりも、自宅の外で他者と楽しむようなライフスタイルについてのみの影響であったととらえたほうが適切であると考えられる結果が得られた。

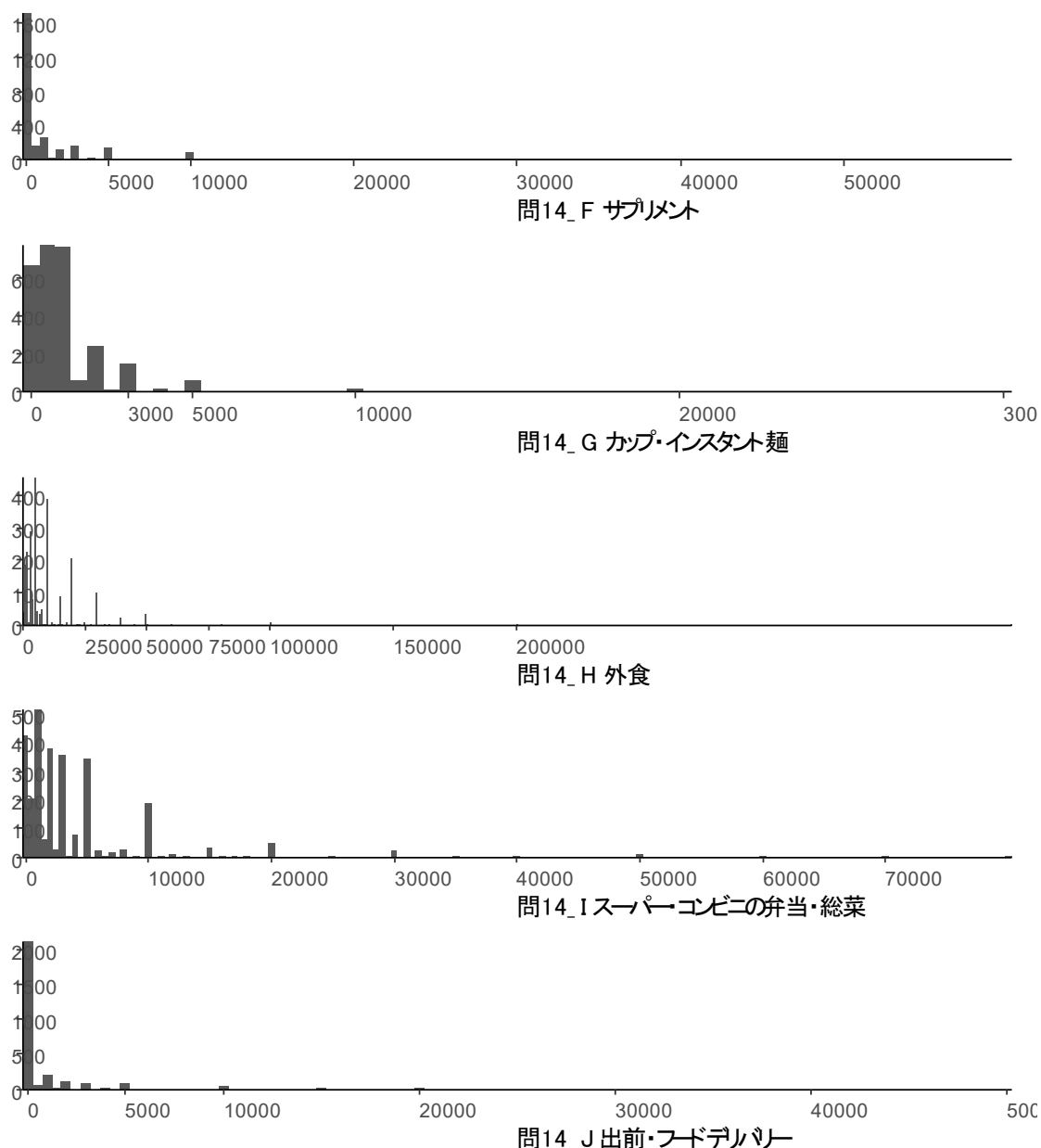


図 15. コロナ禍前のサプリ，飲食サービス消費金額（1 カ月平均）

次の図 16 と図 17 は政党や国家に対する好感度の分布を表したものである。調査時点において政党要件を満たしていた国政政党それぞれと日本及び関係の深い周辺国に対する好感度を 0～10 の 11 段階で、数字が大きいほど好感度が高いことを示している。A 自民党については平均値 4.95，標準偏差 2.04 と標準偏差は他の既存政党とそれほど差はない一方で平均値はやや高く、最近の国政選挙などの結果とも一致するような結果となっている。5 という中間回答が最も多い傾向はどの政党にも共通するところであるが、6 以上の真ん中より高い好感度を示す回答が 30% を超えている。B 立憲民主党は平均値 3.98，標準偏差 1.93 と自民党に比べて平均値が 1 点ほど低い。6 以上の真ん中より高い好感度を示す回答は 10% 強に過ぎなかったことから、自民党に比べてやや劣勢に立たされていることがこの調査でもよくわかる。C 公明党は平均値 3.84，標

標準偏差 2.05 と同じ与党でありながらも自民党よりは 1.1 点平均値が低く、分布の形状も含めてむしろ立憲民主党に近い結果になっている。与党内であっても好感度には差があることが明らかになった。D 日本維新の会は平均値 4.88, 標準偏差 1.99 とこちらは与党ではないもののむしろ野党の立憲民主党よりも与党の自民党に近い結果になっている。6 以上の真ん中より高い好感度を示す回答も 30%近い割合になっている。近年の選挙における躍進を反映する結果といえるだろう。E 共産党は平均値 3.48, 標準偏差 2.09 と立憲民主党よりも平均的な好感度が低い一方で、ばらつきはほとんど変わらないか、やや高いことから、極端な回答が他より多いことが示唆される。「とても強い反感」を示す 0 という回答は自民党の場合約 5%, 立憲民主党の場合約 9%であるのに対し、共産党の場合は約 15%となっていることから明らかである。F 国民民主党は平均値 3.94, 標準偏差が 1.80 と少なくとも好感度の分布の上ではもともと同じ政党であった立憲民主党とあまり違いはみられなかった。G 社民党は平均値 3.51, 標準偏差 1.93 であり、左派、リベラル派というくくりでは同じにされながらも、社会党が源流であることから共産党とは明らかに異なる流れを持つ政党であるが、少なくとも好感度の分布という点では類似している。H NHK 党は平均値 2.60, 標準偏差 2.22 と全政党中最も好感度が低かった。「とても強い反感」を示す 0 という回答がほかの政党に比べて極端に多い 30%近い割合を占めており、6 以上の真ん中より高い好感度の回答はわずか 5%未満に過ぎない。I れいわ新選組は平均値 3.21, 標準偏差 2.21 と NHK 党に次ぐ高感度の低さであり、「とても強い反感」を示す 0 という回答が 20%近くを占めている一方で、6 以上の真ん中より高い好感度の回答は 7%未満であった。

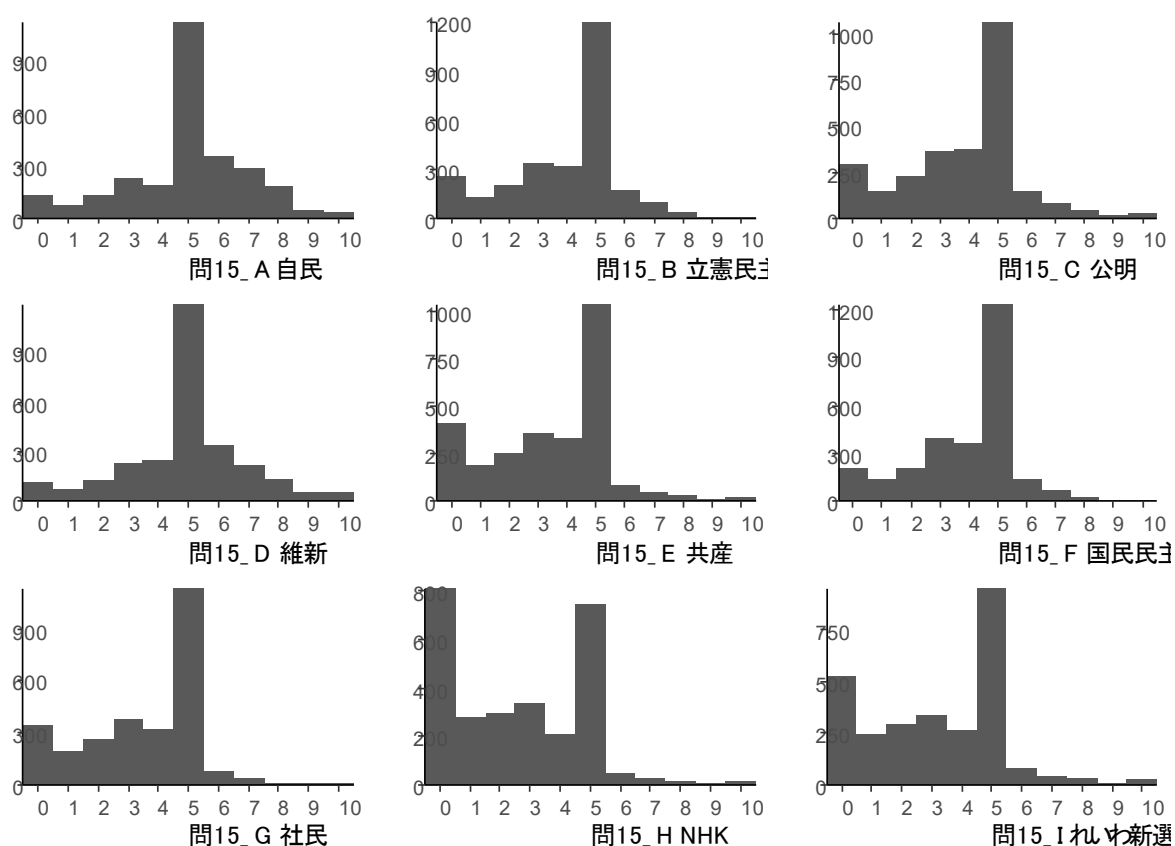


図 16. 政党への好感度

国家に対する好感度も政党の場合と同様に質問しており、J 日本に対する好感度は平均値が 5.89、標準偏差が 2.35 であった。中間回答が最も多いという点は政党の場合及び他の国々への好感度の場合と同じであるが、日本に対する好感度は 7 や 8 という比較的高い好感度にもそれぞれ 10%以上の回答が集まっていることで平均と標準偏差が大きくなっていることが示唆される。K アメリカに対する好感度は平均値 5.34、標準偏差 1.80 であった。それほど極端な回答は多くないが、6 や 7 といった日本に対する好感度よりはわずかに下といった印象の回答がそれぞれ 10%以上を占めている。I 中国、M 韓国、N ロシアに対する好感度は日米とは大きく様相が異なっている。中国から順に平均値が 2.79、標準偏差が 1.99、韓国は平均値 3.09、標準偏差 2.10、ロシアは平均値 3.10、標準偏差 1.93 とどれも平均値がかなり低くなっている。分布のグラフを見ても形状の違いは一目瞭然で、「とても強い反感」をふくむネガティブな回答が多くを占めている。4 以下の真ん中よりネガティブな印象を示す回答の割合が対中国の場合約 75%、対韓国では 70%弱、対ロシアでは 65%強となっており、特に中国に対しては「とても強い反感」を示す 0 が 20%近くを占めるなど、かなりネガティブな反応が多くみられた。

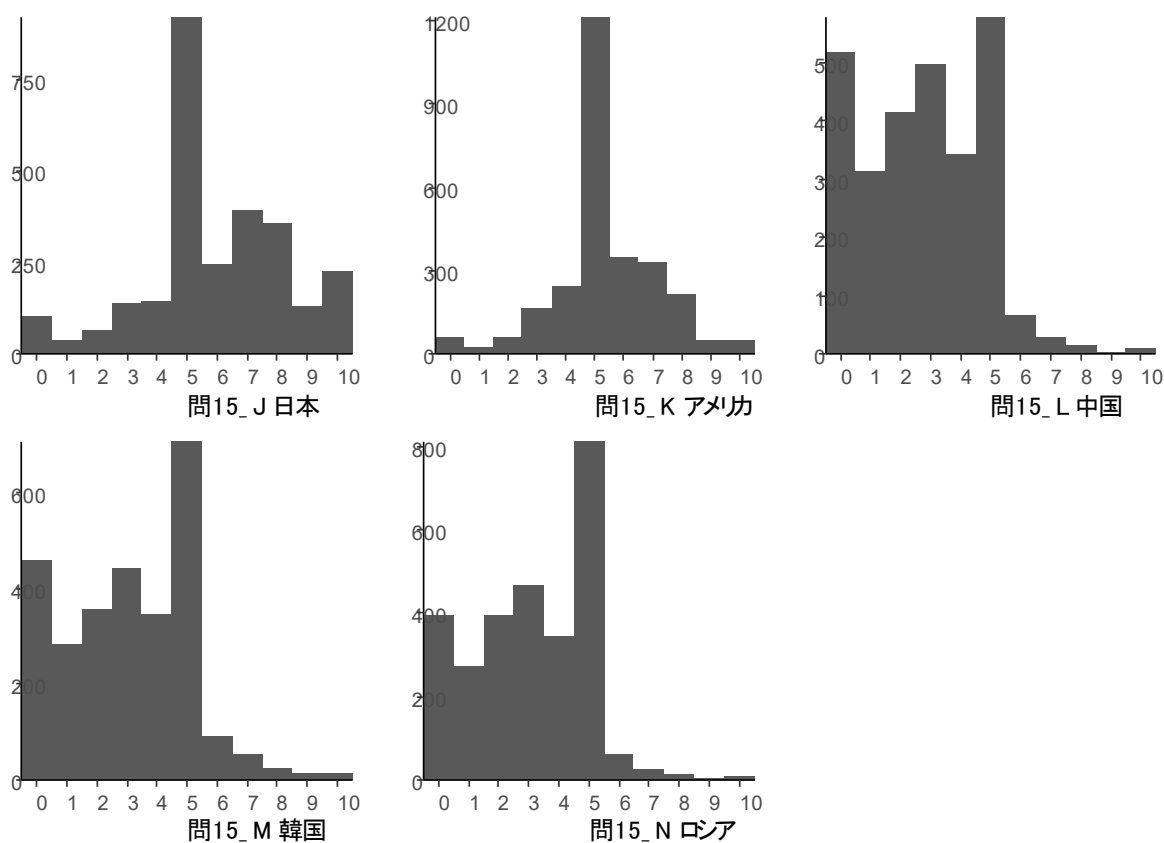


図 17. 日本及び周辺国への好感度

表 18 で示しているのは寛容性に関する質問群の回答分布である。A 人種の異なる人々から E 普段から外国語を話す人々までの各条件に当てはまる人が自身の近所に増えることについて賛成か反対かを 5 段階で質問している。どの項目も過半数が「どちらともいえない」と回答しているが、A 人種の異なる人々では賛否が拮抗しているのに対して、B 移民や外国人労働者と C 宗教

の異なる人々に対しては反対意見が多くなっている。そして、D 同性カップルと E 普段から外国語を話す人々については賛成意見が多くなっている。

表 18. 寛容性

		反対	どちらか といえば 反対	どちら とも いえない	どちらか といえば 賛成	賛成	合計	欠 損 値
A. 人種の異なる人々	度数	144	496	1531	487	197	2855	52
	有効%	(5.0)	(17.4)	(53.6)	(17.1)	(6.9)	(100)	
B. 移民や外国人労働者	度数	217	684	1440	379	133	2853	54
	有効%	(7.6)	(24.0)	(50.5)	(13.3)	(4.7)	(100)	
C. 宗教の異なる人々	度数	198	578	1645	302	132	2855	52
	有効%	(6.9)	(20.2)	(57.6)	(10.6)	(4.6)	(100)	
D. 同性カップル	度数	188	356	1477	508	327	2856	51
	有効%	(6.6)	(12.5)	(51.7)	(17.8)	(11.4)	(100)	
E. ふだんから 外国語を話す人々	度数	87	300	1578	591	298	2854	53
	有効%	(3.0)	(10.5)	(55.3)	(20.7)	(10.4)	(100)	

ここから先は個人の属性や社会経済的地位に関する質問が並んでいる。まず性別（表 19）については男性が 52.1%，女性が 47.9%とやや男性の回答が多い形に偏りが生じていた。

表 19. 性別

	度数	有効%
男性	1516	(52.1)
女性	1391	(47.9)
合計	2907	(100)

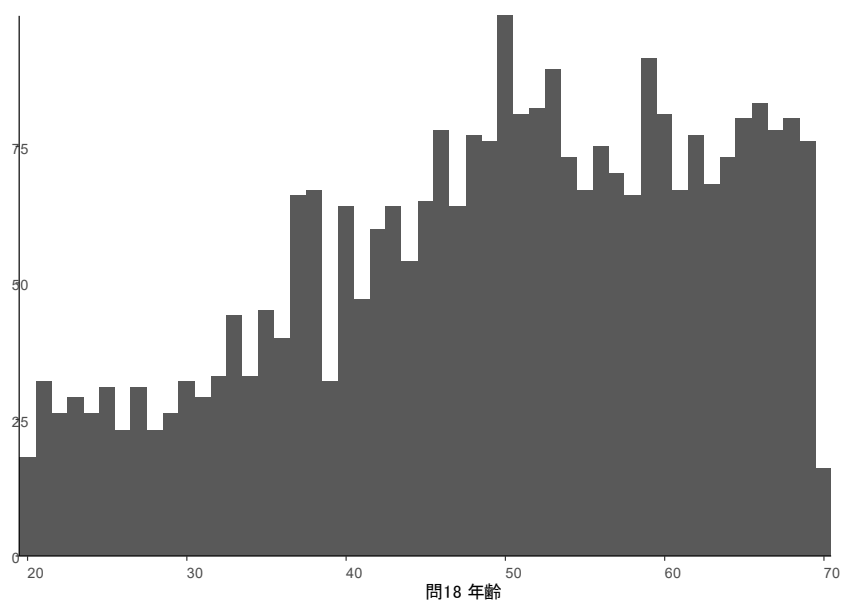


図 20. 年齢

年齢（図 20）については 2,30 歳代の若い年代の回収が比較的少なく，平均値が 49.46，標準偏差が 12.99 という分布になっていた．続けて質問しているのは本人による主観的な健康状態（表 21）で，「よい」から「わるい」までの 5 段階で回答する形式になっている．「わるい」という回答はほとんどみられず，「ふつう」以上の健康状態である人が 80%以上を占めている．

表 21. 主観的健康

	度数	有効%
よい	380	(13.2)
まあよい	696	(24.2)
ふつう	1328	(46.2)
あまりよくない	416	(14.5)
わるい	54	(1.9)
合計	2874	(100)
欠損値	33	

表 22. 本人学歴

	度数	有効%
中学校	81	(2.8)
高校	955	(33.3)
短大・高専	324	(11.3)
各種専門学校	488	(17.0)
大学（4年制）	880	(30.7)
大学（6年制：医歯薬等）	23	(0.8)
大学院（修士課程）	86	(3.0)
大学院（博士課程）	21	(0.7)
その他	6	(0.2)
合計	2864	(100)
欠損値	43	

学歴の分布（表 22）は高校卒が 33%と最も多く，次いで 4 年生の大学卒が約 30%で 2 番目の多さであった．ただし大卒以上の学歴を合計すると約 35%と高校卒を超える値になっている．調査対象の世代に鑑みれば妥当な比率と考えられるだろう．続く表 23 で示しているのは本人の従業上の地位である．職業に関していわゆる正規雇用か非正規雇用かといった地位の違いについて調べたものである．いわゆる正規雇用を意味する「常時雇用されている一般従業者」が約 45%と多数を占めている．それに対していわゆる非正規雇用を示す「臨時雇用，パート，アルバイト」および「派遣社員」「契約社員，嘱託」「内職」の合計は約 25%であった．専業主婦／主夫や学生を含む無職扱いとなるカテゴリは合計で 20%を少し下回る程度であった．また，調査票には問 22 と問 23 として勤め先の事業及び本人の仕事内容に関する自由記述による質問があるが，この速報版ではこれらについての単純な分布はあまりにも冗長となるため割愛する．本格的な研究を実施するにあたってはこれらの回答にコーディングを施し，職業の小分類や職業威信スコアといった職業的地位を示す変数として利用する想定である．

表 23. 本人従業上の地位

	度数	有効%
経営者、役員	117	(4.1)
常時雇用されている一般従業者	1272	(44.6)
臨時雇用、パート、アルバイト	480	(16.8)
派遣社員	48	(1.7)
契約社員、嘱託	153	(5.4)
自営業主、自由業者	188	(6.6)
家族従業者	47	(1.6)
内職	8	(0.3)
専業主婦／主夫(仕事は全くしていない)	238	(8.3)
無職(仕事を探している)	69	(2.4)
無職(仕事を探していない)	168	(5.9)
学生	54	(1.9)
その他	12	(0.4)
合計	2854	(100)
欠損値	53	

図 24 に示している 2 つのグラフは労働時間と労働日数であり、それぞれ 1 日あたりの労働時間と 1 週間あたりの労働日数を実数で聞いている。労働時間の平均値は 8.18、標準偏差は 2.43 であり、グラフ上も労働時間 8 時間というケースがとびぬけて多いことがわかる。労働日数は平均値 4.95、標準偏差 0.98 とこれも週 5 日勤務に回答が集中している。なおこれらの変数については有職者のみに回答を求める形になっている。

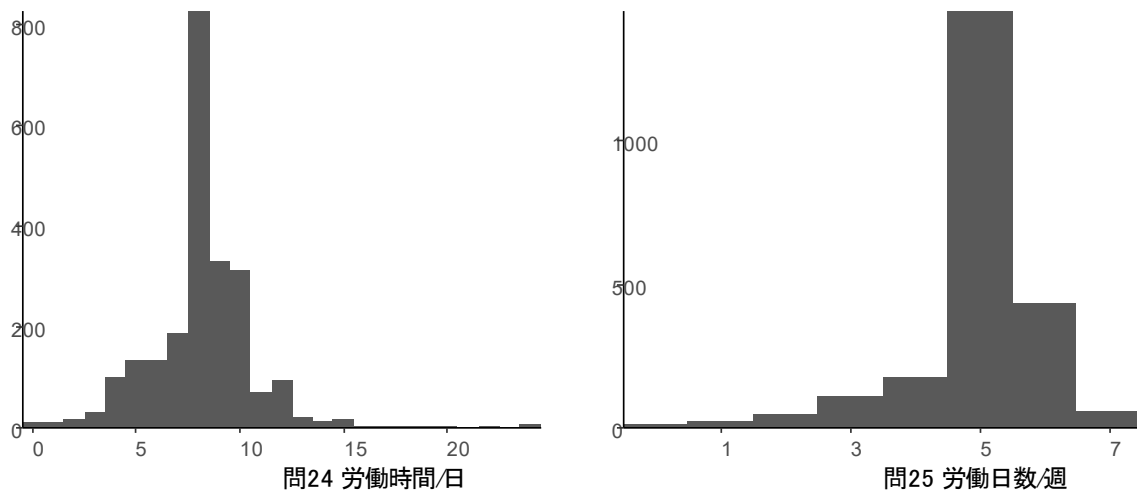


図 24. 労働時間と労働日数

表 25 と表 26 はそれぞれ勤め先の企業規模と本人が付いている役職についての回答分布である。どちらも労働時間や労働日数と同じく有職者のみが回答する形式を取っている。企業規模は比較的幅広く分布しているが、比較的回答が集中しているのが「10～29 人」のカテゴリから「100～299 人」までの中規模程度の企業と、「1,000 人以上」の大企業でありこれらのカテゴリは 10%

以上（大企業は20%近く）の割合を占めている。役職（表26）については70%近くの人は役職についておらず、課長以上のいわゆる管理職とみなせる役職についている人は合計で15%程度であった。

表 25. 企業規模

	度数	有効%
1人	115	(5.1)
2～4人	167	(7.4)
5～9人	160	(7.1)
10～29人	335	(14.8)
30～99人	372	(16.4)
100～299人	278	(12.3)
300～499人	155	(6.8)
500～999人	159	(7.0)
1000人以上	451	(19.9)
官公庁	73	(3.2)
合計	2265	(100)
欠損値	642	

表 26. 役職

	度数	有効%
役職なし	1579	(69.7)
監督、職長、班長、組長	119	(5.3)
係長、係長相当職	166	(7.3)
課長、課長相当職	144	(6.4)
部長、部長相当職	75	(3.3)
社長、重役、役員、理事	156	(6.9)
その他	25	(1.1)
合計	2264	(100)
欠損値	643	

続く図27に示すのは、これも同じく有職者のみを対象とした質問で、現在までの勤続年数である。原理上、現在の年齢と就業可能な最低年齢との差を超える勤続年数は取り得ないために、勤続年数のグラフは右肩下がりの単調減少のような形になっている。平均値は13.81、標準偏差は11.76となっており、勤続年数10年以下が過半数を占めている。

本人の現在の職業に続いて質問しているのは、コロナ禍における職業の変化についてである。表28で示すのが、コロナ禍における職業の変化の有無であり、変化があったのは約15%であった。これ以降の質問項目は、この約15%の人びとを対象とした、コロナ禍において変化する前の職業についてのものである。

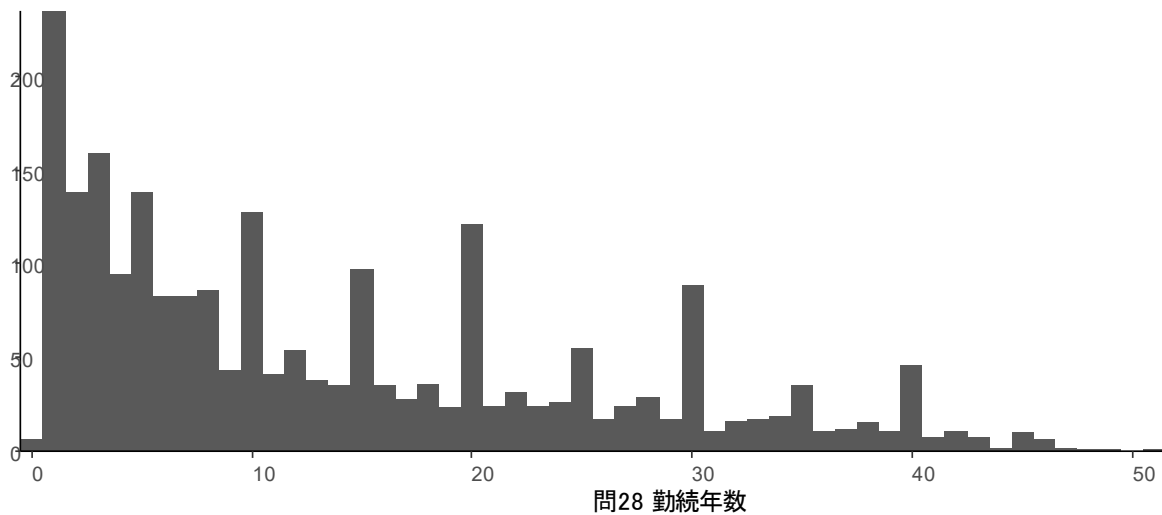


図 27. 勤続年数

表 28. コロナ禍における職業変化の有無

	度数	有効%
変化があった (退職、転職、就職など)	413	(14.7)
変化はない	2403	(85.3)
合計	2816	(100)
欠損値	91	

表 29 に示すのがコロナ禍において職業の変化があった人の、変化して現職になる前の職業における従業上の地位である。約 40%はいわゆる正規雇用の仕事であった一方で、30%強は非正規雇用、15%程度は無職（専業主婦／主夫と学生を含む）であった。

表 29. コロナ禍による変化前の従業上の地位

	度数	有効%
経営者、役員	29	(5.2)
常時雇用されている一般従業者	220	(39.1)
臨時雇用、パート、アルバイト	105	(18.7)
派遣社員	27	(4.8)
契約社員、嘱託	46	(8.2)
自営業主、自由業者	33	(5.9)
家族従業者	8	(1.4)
内職	2	(0.4)
専業主婦／主夫(仕事は全くしていなかった)	28	(5.0)
無職（仕事を探していた）	12	(2.1)
無職（仕事を探していなかった）	25	(4.4)
学生	22	(3.9)
その他	5	(0.9)
合計	562	(100)
欠損値	2345	

問 31 と問 32 はコロナ禍において職業に変化があった人に、以前の勤め先の産業と仕事の内容を自由記述で聞いたものであるが、現職と同様に単純な分布を示すとあまりに冗長となるためここでは割愛している。この次に配置しているのが同じくコロナ禍で変化があった場合の前職における労働時間と労働日数（図 30）である。労働時間の平均値は 8.18、標準偏差は 2.41 であり、グラフ上も 1 日 8 時間労働が多数を占めている。労働日数についても現職とさほど変わらず平均値 5.00、標準偏差 0.98 で、週 5 日労働が多数を占めている。

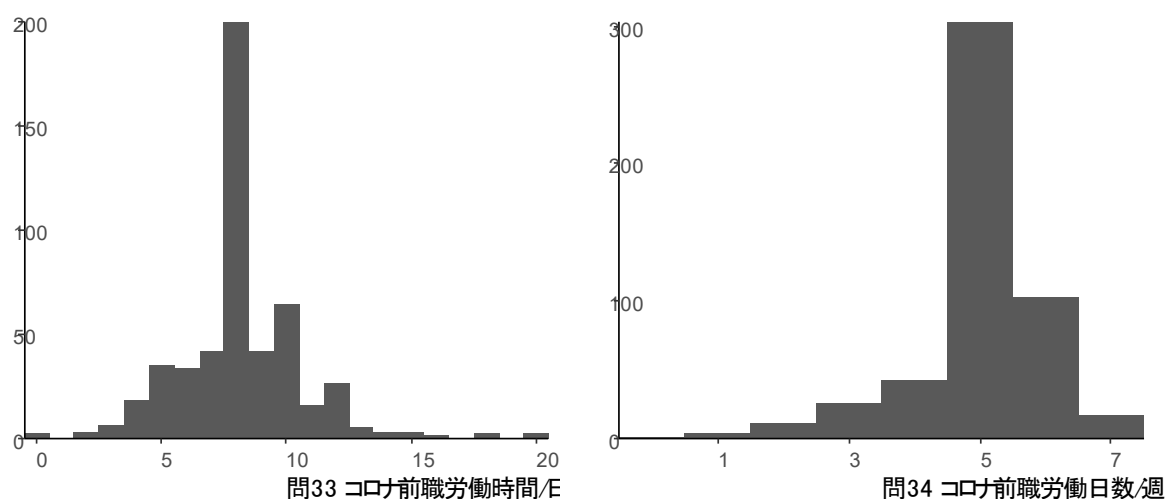


図 30. コロナ前の仕事の労働時間と労働日数

表 31. コロナ前の仕事の企業規模

	度数	有効%
1人	20	(3.9)
2～4人	39	(7.7)
5～9人	34	(6.7)
10～29人	72	(14.2)
30～99人	86	(17.0)
100～299人	74	(14.6)
300～499人	34	(6.7)
500～999人	42	(8.3)
1000人以上	97	(19.1)
官公庁	9	(1.8)
合計	507	(100)
欠損値	2400	

表 31 に示すのも同じくコロナ禍において変化があった場合の前職に関する勤め先の企業規模である。分布は基本的に現職の場合とほとんど変わりなく「10～29 人」のカテゴリから「100～299 人」までの中規模程度の企業と、「1,000 人以上」の大企業に回答が集中している。そして表 32 では同じく役職についての回答を示している。現職の場合よりもさらに多い 75% 近くの人 はコロナ禍による変化の前の仕事において役職にはついていなかった。

表 32. コロナ前の仕事における役職

	度数	有効%
役職なし	379	(74.9)
監督、職長、班長、組長	31	(6.1)
係長、係長相当職	21	(4.2)
課長、課長相当職	22	(4.3)
部長、部長相当職	14	(2.8)
社長、重役、役員、理事	31	(6.1)
その他	8	(1.6)
合計	506	(100)
欠損値	2401	

表 33 以降では再び全体に対する質問に戻っており、最初は婚姻状況についての回答の分布である。全体の 25%強が未婚、65%弱が既婚であり、離別と死別はそれほど多くは無かった。

表 33. 婚姻状況

	度数	有効%
未婚（結婚したことがない）	749	(26.1)
結婚している（事実婚も含む）	1845	(64.2)
離別	223	(7.8)
死別	56	(1.9)
合計	2873	(100)
欠損値	34	

表 34. 子どもの人数

	度数	有効%
いない	1032	(36.1)
1人いる	399	(13.9)
2人いる	972	(34.0)
3人いる	405	(14.2)
4人以上いる	54	(1.9)
合計	2862	(100)
欠損値	45	

表 35. ライフステージ

	度数	有効%
子どもは小学校入学前	290	(15.9)
子どもは小・中学生	322	(17.7)
子どもは高校生以上（学生）	263	(14.5)
子どもはすでに学校教育を終えた	944	(51.9)
合計	1819	(100)
欠損値	1088	

表 34 では子どもの人数について質問しており、35%強の人は子どもがおらず、子どもがいる人で多数を占めたのは、全体の 35%弱を占める子どもが 2 人いるという回答であった。なお、ここでいう子どもというのは関係性としての回答者本人の子であって、既に成人していても子どもとしてカウントしている。そして表 35 は末子の就学状況を尋ねることで、本人のライフステージを明らかにする質問に対する回答である。末子がすでに学校教育を終えていることから、子育て段階を終えている人が過半数を占め、未就学の子を抱えている人、義務教育段階の子がいる人、義務教育以降の学校段階（高校以上）にある子のいる人の割合はどれもそれほど大きな差が無かった。そして、同じく家族関係の変数として、表 36 に示しているのは同居家族人数の回答である。1 人暮らしは 10%強、2～4 人暮らしが多数を占めこれらの合計が約 75%に達している。

表 36. 同居家族人数

	度数	有効%
1 人（一人暮らし）	366	(12.8)
2 人	813	(28.3)
3 人	734	(25.6)
4 人	589	(20.5)
5 人	233	(8.1)
6 人	91	(3.2)
7 人以上	43	(1.5)
合計	2869	(100)
欠損値	38	

表 37 に示すのは現在の居住形態である。住居が持ち家なのか、あるいは賃貸なのかといったことを問うている。60%以上が戸建ての持ち家に住んでおり、持ち家の集合住宅は約 10%、賃貸では集合住宅が全体の約 20%とそれなりに多くを占めているものの、賃貸の戸建て（借家）の比率は低いことがわかった。

表 37. 居住形態

	度数	有効%
持ち家（一戸建て）	1818	(63.3)
持ち家（分譲マンション）	331	(11.5)
借家（一戸建て）	95	(3.3)
賃貸のアパート、マンション	555	(19.3)
社宅、寮、官舎	49	(1.7)
その他	22	(0.8)
合計	2870	(100)
欠損値	37	

住居にまつわるもうひとつの質問は居住年数である。同じ地域での通算居住年数を聞くことで、地域への馴染みの程度の指標とすることができる。もちろんこれも、勤続年数と似た数値の限界があり、年齢を超える居住年数となることはない。そのため分布のグラフ（図 38）もやはり右肩下がりでの単調減少のような形になっている。平均値は 23.65、標準偏差は 17.39 であり、過半数は 20 年以下の居住年数である。

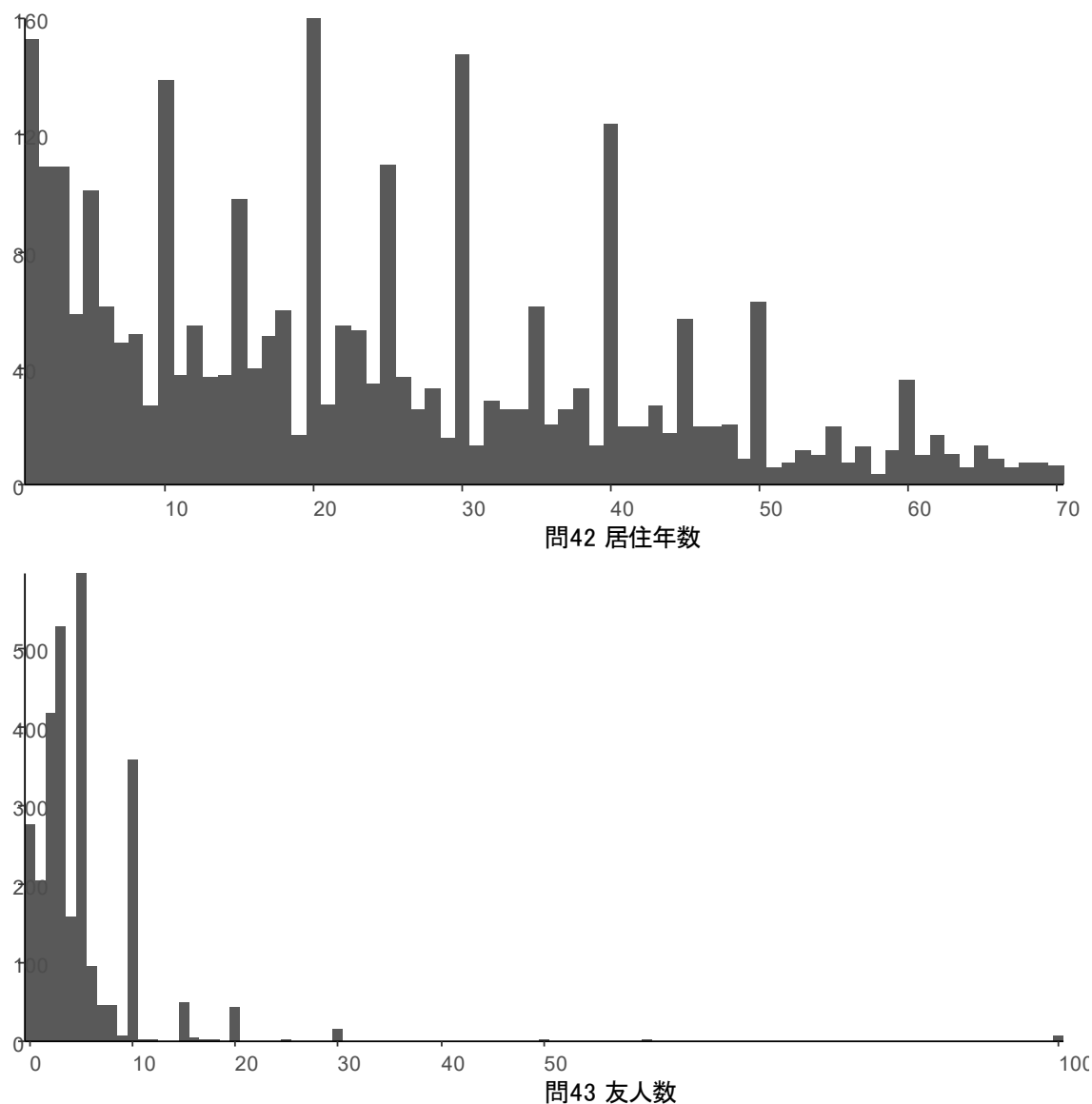


図 38. 居住年数と友人数

続けて同じ図 38 の下部に示しているのが日頃から付き合いがある親しい友人の人数である。なお、図 38 のグラフでは 1 ケースだけみられた 1,000 人という外れ値はグラフの見やすさを優先して除外している。分布を見ると 3 人以下が約 50%，10 人以下の範囲で約 95%を占めており、平均値は 5.25、標準偏差は 19.57 であった。

表 39. 個人収入

	度数	有効%
なし	175	(6.2)
1 万円以上、200万円未満	860	(30.4)
200万円以上、400万円未満	796	(28.1)
400万円以上、600万円未満	505	(17.8)
600万円以上、800万円未満	275	(9.7)
800万円以上、1000万円未満	115	(4.1)
1000万円以上、1500万円未満	67	(2.4)
1500万円以上	39	(1.4)
合計	2832	(100)
欠損値	75	

表 40. 世帯収入

	度数	有効%
1 万円以上、200万円未満	191	(6.8)
200万円以上、400万円未満	563	(19.9)
400万円以上、600万円未満	639	(22.6)
600万円以上、800万円未満	464	(16.4)
800万円以上、1000万円未満	357	(12.6)
1000万円以上、1500万円未満	289	(10.2)
1500万円以上	115	(4.1)
わからない	206	(7.3)
合計	2824	(100)
欠損値	83	

最後の質問群は収入に関するものである。表 39 に示しているのが対象者個人の収入である。約 30%は 1 万円以上 200 万円未満という最も収入の低いカテゴリであり、収入なしも含めると個人での収入は 400 万円未満の人が全体の約 65%であった。世帯での収入（表 40）の場合は個人収入の場合ほど低いカテゴリには集中していない。400 万円未満に含まれるのは全体の約 25%であった。最も多数を占めるのは世帯収入 400 万円以上 600 万円未満のカテゴリで、全体の 20%以上を占めている。個人の収入では 5%にも満たなかった 1,000 万円以上も世帯収入では 15%近くを占めていた。

最後の表 41 で示しているのは、表 28 から表 32 で示していたコロナ禍で職業に変化があった場合の前職における個人の収入である。したがって表 28 から表 32 と同じように、コロナ禍において職業に変化が無かった人には回答を求めている。現在の個人収入と比べると個人収入なしの比率が約 20%と高くなっている。これはコロナ禍以降に新たに職を得た人が一定数含まれていることを示しており、コロナ禍における変化ではありつつも必ずしもコロナ禍の影響とはみなせない可能性があることは否定できない。1 万円以上 200 万円未満のカテゴリが約 30%、200 万円以上 400 万円未満のカテゴリが約 25%であることから、全体として約 75%はコロナ禍において職業に変化があった人の前職でのコロナ前の個人収入が 400 万円未満であることが明らかになった。

表 41. コロナ禍による職業変化前の個人収入

	度数	有効%
なし	135	(19.0)
1万円以上、200万円未満	221	(31.1)
200万円以上、400万円未満	180	(25.4)
400万円以上、600万円未満	92	(13.0)
600万円以上、800万円未満	36	(5.1)
800万円以上、1000万円未満	21	(3.0)
1000万円以上、1500万円未満	17	(2.4)
1500万円以上	8	(1.1)
合計	710	(100)
欠損値	2197	

3. 基礎分析

ここまでほぼすべての質問事項に関しての度数分布を確認してきたが、速報版調査報告書の最後の内容として極めて限定的ではあるものの、嗜好品の摂取や飲食関連のサービス利用状況と社会意識の関係を基礎的な分析で確認しておきたい。まずは問 11 の嗜好品や飲食サービスの利用頻度と問 5 の社会意識の相関係数を確認する。

表 42 と 43 で結果を簡単に確認するが、格差に対する意識との関連ではコーヒー、お茶、スイーツ、お酒、外食、出前の利用頻度が高いほど、結果の平等や福祉の充実よりも競争の自由を優先する傾向があることがわかる。次に向社会性についてはコーヒー、お茶、お酒をよく飲む人ほど向社会性が高く、逆にカップ麺や弁当・総菜の利用頻度が高いほど向社会性は低い傾向が確認できた。政治に関する意識は結果が必ずしも一貫はしていないものの、スイーツ・お菓子をよく食べる人は政治のことは難しすぎて理解できないと考え、一般国民の意見や希望は国の政治に反映されていないと考える傾向があること、カップ麺をよく食べる人も同じく政治のことは難しすぎると考え、投票行動はあまり政治に影響しないと考え、政治のことはやりたい人に任せればよいと考える傾向があることから、これらのライフスタイルを有する人は政治的有効性感覚が低いと考えることができる。似たような結果はたばこでも観測され、たばこをよく吸う人ほど一般国民の意見や希望は政治に反映されておらず、政治のことはやりたい人に任せようとする傾向が強かった。これに対してお酒をよく飲む人では政治のことを難しすぎとは思わず、投票行動は政治に影響を与えていると考える傾向があることから、政治的有効性感覚は比較的高いと言えるだろう。また、お酒との関係で言えば一般的信頼感との間にも正の相関がみられ、お酒を飲む頻度が高いほど一般的に他者への信頼感が高い傾向がみられる。

その他、多様性に関してはコーヒー、お茶、スイーツ、お酒、外食、出前のそれぞれを利用する頻度が高いほど多様性のある社会を肯定的にとらえる傾向があることが明らかになった。この傾向がみられるライフスタイルは競争を重視するライフスタイルと重複している。地域の絆についてはコーヒー、お茶、スイーツ、サプリメント、外食、出前をよく利用するほど、地域の絆を感じておらず、たばこをよく吸う人のみ、逆に地域の絆を感じていることが明らかになった。また、お茶、スイーツ、お酒、サプリメント、外食をよく利用する人ほど、主観的自由を感じる程度が高いことも明らかになった。

表 42. 嗜好品等の利用頻度と社会意識の相関①

	政府は豊かな人か らの税金を増やし てでも、恵まれな い人への福祉を充 実させるべきだ	チャンスが平等に 与えられるなら、 競争で貧富の差が ついてもしかたが ない	競争の自由をまも るよりも、格差を なくしていくこと の方が大切だ	社会からなにかを してもらいよりも 社会のためになに かをしたい	政治のことは難し すぎて自分にはと ても理解できない	国会議員選挙のと きに、私たち一般 国民が投票するこ とは、国の政治に 影響を及ぼしてい ると思う	私たち一般国民の デモや陳情、請願 は、国の政治に影 響を及ぼしている と思う
A. コーヒー	-.046*	.080**	-.102**	.089**	-.072**	.020	-.015
B. お茶	-.056**	.066**	-.037*	.074**	-.057**	.035	.000
C. スイーツ お菓子	-.052**	.039*	.018	-.006	.068**	.015	.000
D. お酒	-.058**	.058**	-.064**	.100**	-.097**	.037*	.016
E. たばこ	.009	.009	.016	-.013	-.029	-.053**	-.018
F. サプリメント	-.003	.058**	-.030	.028	-.047*	.025	-.008
G. カップ麺 インスタント麺	.035	.012	.044*	-.085**	.061**	-.043*	-.011
H. 外食サービス	-.114**	.150**	-.106**	.016	-.030	-.005	-.001
I. 弁当、総菜	.012	.036	.030	-.049**	.058**	.018	.022
J. 出前	-.049**	.043*	.006	.012	.034	.009	.046*

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

表 43. 嗜好品等の利用頻度と社会意識の相関②

	私たち一般国民の 意見や希望は、国 の政治に反映され ていると思う	政治のことはやり たい人に任せてお けばよい	一般的にいて、 ほとんどの人は信 頼できる	違った考え方を もった人がたくさ んいる方が社会に あって望ましい	近所の人たちは強 いきずなで結ばれ ている	私の生き方は、お もに自分の考えで 自由に決められる
A. コーヒー	-.021	-.017	.027	.084**	-.042*	.028
B. お茶	-.013	-.058**	.008	.120**	-.058**	.080**
C. スイーツ お菓子	-.037*	-.003	-.001	.087**	-.066**	.038*
D. お酒	.032	-.028	.047*	.042*	-.034	.051**
E. たばこ	-.065**	.083**	-.026	-.012	.048*	-.017
F. サプリメント	-.002	-.032	-.017	.033	-.037*	.045*
G. カップ麺 インスタント麺	-.023	.049**	-.031	-.032	.019	.005
H. 外食サービス	.006	.018	.005	.056**	-.043*	.088**
I. 弁当、総菜	.000	.063**	-.016	-.005	-.033	.032
J. 出前	.031	.015	-.004	.050**	-.044*	.019

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

もう一つ確認しておきたいのは嗜好品や飲食サービスの利用頻度ではなく消費金額と社会・政治への意識の関係である。社会意識とライフスタイルの関係性については簡単にではあるが上で確認したので、政治的な志向性との関係をここでは確認しておこう。利用するのは問 15 で質問している政党や国に対する好感度である。社会意識は 5 件法であったが、好感度は 0～10 の数値で質問しているため、相関係数による分析にはより適した質問といえるだろう。

表 44 と 45 を見ると、まず特徴的ともいえるのが好感度の高低が必ずしも与党と野党という枠組みにはなっていない点である。例えばお酒と外食への出費が多い人ほど自民党への好感度が高いという傾向がみられているが、共に同じ与党でありながらも公明党への好感度は消費金額が多いほど低い傾向がみられ、自民党への意識とは真逆の傾向になっている。その他の嗜好品や飲食についても、自民・公明両方の好感度と有意な相関なしという例を除けばこの両党に対する意識に同じ傾向がみられる種類の嗜好品や飲食は存在しない。嗜好品や飲食サービスへの消費金額と政党への好感度で多くの共通した傾向がみられたのは、コーヒー、お酒、たばこ、外食であり、

これらへの消費金額が多いほど、立憲民主党、公明党、共産党、国民民主党、社民党への好感度がすべて低いという一貫して傾向であった。これらの政党はどちらかといえば再分配を重視した主張、政策がみられる政党であり、そうした意見への反対がここに表れていると解釈できるかもしれない。また完全に一致はしないが、類似した傾向はカップ麺やお茶でもみられる。

他の嗜好品や飲食と大きく傾向が異なるのが出前への消費金額と政党支持の傾向である。出前やフードデリバリーサービスへの消費金額が多いほど、公明党、共産党、社民党、NHK 党、れいわ新選組への好感度が高くなるという傾向がみられる。このライフスタイルはどちらかといえばリベラルな政策への親和性が高いと考えられるだろう。

表 44. 嗜好品等への消費金額と政党好感度の相関①

	A. 自民	B. 立憲 民主	C. 公明	D. 維新	E. 共産
A. コーヒー	-.007	-.068**	-.072**	.012	-.057**
B. お茶	.001	-.064**	-.011	-.009	-.030
C. スイーツ お菓子	.019	-.051**	-.004	.011	-.017
D. お酒	.049*	-.066**	-.055**	.025	-.088**
E. たばこ	-.029	-.056**	-.069**	-.028	-.057**
F. サプリメント	-.006	-.010	.021	.066**	-.009
G. カップ麺 インスタント麺	.001	-.041*	-.029	-.024	-.040*
H. 外食サービス	.042*	-.068**	-.055**	.069**	-.066**
I. 弁当、総菜	.032	-.037	-.013	.008	-.063**
J. 出前	-.002	.017	.063**	.010	.050**

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

表 45. 嗜好品等への消費金額と政党好感度の相関②

	F. 国民 民主	G. 社民	H. NHK	I. れいわ
A. コーヒー	-.053**	-.062**	-.047*	-.036
B. お茶	-.031	-.042*	-.028	-.014
C. スイーツ お菓子	-.038	-.021	.001	-.015
D. お酒	-.047*	-.094**	-.072**	-.064**
E. たばこ	-.069**	-.077**	.001	-.045*
F. サプリメント	-.030	-.006	-.008	-.007
G. カップ麺 インスタント麺	-.056**	-.067**	-.037	-.033
H. 外食サービス	-.051**	-.067**	-.004	-.047*
I. 弁当、総菜	-.043*	-.059**	-.029	-.046*
J. 出前	.035	.055**	.050**	.039*

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

最後に表 46 でライフスタイルと国への好感度の関係を確認しておく。面白いのはたばこの関係である。たばこへの消費金額が多いほど、日本、アメリカ、中国、韓国への好感度がどれも有意に低い傾向がみられている。たばこの他に日本やアメリカへの好感度との有意な負の関係が確認される嗜好品や飲食は存在しなかったこともあり、たばこをよく吸う人は国家権力自体にあまり好感を抱いていない可能性も指摘できる。お酒と出前については真逆の結果になっている。お酒への消費が多いほど、中国、韓国、ロシアというどちらかといえば日本との外交問題が多い国に対する好感度が低い傾向がみられる一方で、出前やフードデリバリーサービスの利用にともなう消費が多い人ほど、この3か国に対する好感度が高い傾向がみられたのである。政党への好感度においてもお酒は自民党好感度との間に正の相関、そして維新を除くその他の政党への好感度との間に負の相関がみられたが、出前の場合はむしろリベラルな傾向がみられていたという結果も踏まえると、お酒を飲むというライフスタイルと、出前やフードデリバリーサービスをよく利用するというライフスタイルの間には、政治的な志向性に大きな違いがあるのかもしれない。もちろんここで得られているのは単純な2変数間の関係に過ぎず、共変量による交絡はこれから検討する必要がある。さらに、そもそも2変数間の関連も相関係数が絶対値で0.1を超えないような、あまり強いとは言えない関係性がほとんどであることから、慎重な検討が必要ではあるものの、今回の調査の分布や基礎的で試論的な分析からもライフスタイルと社会意識や政治的態度の間には何らかの関係がある可能性が示唆されており、さらなる研究が必要であることが明らかになったと言えるだろう。

表 46. 嗜好品等への消費金額と国好感度の相関

	J. 日本	K. 米国	L. 中国	M. 韓国	N. ロシア
A. コーヒー	.034	.029	-.021	-.067**	-.038*
B. お茶	.023	.003	-.011	-.041*	-.005
C. スイーツ お菓子	.035	.024	-.037	-.027	-.024
D. お酒	.019	.035	-.056**	-.061**	-.054**
E. たばこ	-.083**	-.045*	-.062**	-.079**	-.034
F. サプリメント	-.003	.018	-.037	-.030	-.028
G. カップ麺 インスタント麺	-.006	.021	.014	-.045*	-.004
H. 外食サービス	.032	.098**	-.002	-.013	.001
I. 弁当、総菜	.011	.042*	-.022	-.052**	-.023
J. 出前	-.031	.027	.071**	.087**	.098**

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

「ライフスタイルと社会意識に関する調査」

この調査は、政治や社会に対する価値観、及び社会経済的地位と、嗜好品などの飲食や余暇といったライフスタイルの関係性やその変化を明らかにするために、全国で実施される標本調査です。収集されたデータはその後、高度な統計解析にかけられます。これによって、コロナ禍の日本社会における、社会経済的地位、ライフスタイル、価値観の関連とその変化を解明し、ライフスタイルの劇的変化が社会に与えている影響を明らかにしたいと考えています。

お答えいただいた内容は、すべて数字としてまとめますので、どなたがどのようなお答えをなさったかが知られるようなことは一切ございません。

お忙しいところ、こまかい内容で恐れ入りますが、この調査にご協力をお願いいたします。

記入にあたってのお願い

- ☆ この調査にご協力いただくのは、**封筒のあて名のご本人様**です。
ご自身のお考えを記入してください。
- ☆ この調査票の質問にしたがって、回答欄のあてはまる番号に○をつけてください。
回答は○の数が「1つだけ」のものと、「数字を記入」するものがあります。
「その他（具体的に： ）」にあてはまる場合は、お手数ですが○のほかにその内容を具体的にご記入ください。
- ☆ 問1から順番にお答えください。一部の方だけにお答えいただく質問もありますが、その場合は【 】で示してあります。
- ☆ 聞き慣れない言葉が出てきたときは、わかる範囲でお答えください。
- ☆ ご回答に迷われる場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。
どうしても答えられない質問がありましたら、そのまま次の質問へお進みください。
- ☆ 記入は黒または青色の鉛筆・ペン・ボールペンをお願いいたします。
- ☆ お時間のあるときに少しずつ記入していただいてもかまいませんので、最後の質問までご回答のほど、よろしくお願いいたします。

ご記入いただきました調査票は、**1月14日（金）**までにご投函をお願いいたします。

御礼として**QUOカード（1,000円分）**と**ボールペン**を同封しております。

2022年1月

【調査実施主体】公益財団法人たばこ総合研究センター

【調査委託機関】株式会社日本リサーチセンター

フリーダイヤル 0120-925-394（平日 10時～12時／13時～17時）



ご回答は封筒のあて名のご本人様にお願いいたします。

まず、あなたの普段の暮らしについて伺います。

問1. 「とても幸せ」を10、「とても不幸」を0とすると、現在あなたはどれくらい「幸せ」だと思いますか。(○はひとつ)

とても不幸←						→とても幸せ				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問2. かりに現在の日本の社会全体を、下記のように、「上」を10、「下」を0とする11の層に分けるとすれば、「現在のあなた自身」はどれに入ると思いますか。(○はひとつ)

下←					→上					
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問3. では「とても満足」が10、「とても不満」が0とすると、以下のAからGについて、あなた自身は、どれくらい「満足」していますか。(○はそれぞれひとつ)

		← とても不満 → とても満足											非該当
A. 生活全般	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	仕事を していない 88
B. 自分の友人関係	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
C. 自分の仕事内容	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
D. 現在の居住地	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
E. 自分の収入（収入が無い場合も）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
F. 家庭全体の収入	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
G. 自分の趣味、余暇の過ごし方	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

問4. 以下のような組織や団体、個人を、あなたはどの程度信頼していますか。あてはまるものをお答えください。(○はそれぞれひとつ)

		とても信頼している	ある程度信頼している	どちらともいえない	あまり信頼していない	まったく信頼していない
A. マスメディア（新聞・テレビなど）	→	5	4	3	2	1
B. 中央官庁	→	5	4	3	2	1
C. 地方自治体	→	5	4	3	2	1
D. 政治家	→	5	4	3	2	1
E. 学校	→	5	4	3	2	1
F. 学者・研究者	→	5	4	3	2	1
G. 近所の人	→	5	4	3	2	1
H. 個人的な友人、知人	→	5	4	3	2	1
I. 自分と異なる宗教の人	→	5	4	3	2	1
J. 自分と異なる国籍の人	→	5	4	3	2	1

問5. あなたは、次のような意見について、どう思いますか。それぞれもっともあてはまるものを1つお選びください。(○はそれぞれひとつ)

		そう 思う	やや そう 思う	ど ちら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	
A.	政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、 恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	→	5	4	3	2	1
B.	チャンスが平等に与えられるなら、 競争で貧富の差がついてもしかたがない	→	5	4	3	2	1
C.	競争の自由をまもるよりも、 格差をなくしていくことの方が大切だ	→	5	4	3	2	1
D.	社会からなにかをしてもらうよりも 社会のためになにかをしたい	→	5	4	3	2	1
E.	政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない	→	5	4	3	2	1
F.	国会議員選挙のときに、私たち一般国民が投票することは、 国の政治に影響を及ぼしていると思う	→	5	4	3	2	1
G.	私たち一般国民のデモや陳情、請願は、 国の政治に影響を及ぼしていると思う	→	5	4	3	2	1
H.	私たち一般国民の意見や希望は、 国の政治に反映されていると思う	→	5	4	3	2	1
I.	政治のことはやりたい人に任せておけばよい	→	5	4	3	2	1
J.	一般的にいて、ほとんどの人は信頼できる	→	5	4	3	2	1
K.	違った考え方をもった人がたくさんいる方が 社会にとって望ましい	→	5	4	3	2	1
L.	近所の人たちは強いきずなで結ばれている	→	5	4	3	2	1
M.	私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる	→	5	4	3	2	1

問6. あなたは、以下のようなことを、ふだんどの程度していますか。あてはまるものをそれぞれお選びください。(○はそれぞれひとつ)

		いつも している	よく している	ときどき している	めったに しない	したこと がない	
A.	国政選挙や自治体選挙の際の投票	→	5	4	3	2	1
B.	市民運動への参加	→	5	4	3	2	1
C.	ボランティア、NPO、NGO 活動への参加	→	5	4	3	2	1
D.	募金や寄付	→	5	4	3	2	1

ここからはコロナ禍（現在）の行動とコロナ禍前の行動についてそれぞれ伺います。

問7. あなたは、以下のような活動をどの程度していますか。コロナ禍のこの2年程度（2020年～）についてお答えください。（○はそれぞれひとつ）

		ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	最近二年はしていない
A. スポーツをする	→	5	4	3	2	1
B. カラオケ、ボウリング	→	5	4	3	2	1
C. 小説や歴史の本を読む	→	5	4	3	2	1
D. スポーツ新聞、女性週刊誌をよむ	→	5	4	3	2	1
E. 宝くじを買う	→	5	4	3	2	1
F. パチンコ、麻雀、ギャンブル（競馬など）に行く	→	5	4	3	2	1
G. 図書館に行く	→	5	4	3	2	1

問8. では、次のような活動はいかがですか。あてはまるものをお選びください。（○はそれぞれひとつ）

		一回以上月に	年に数回	一回に年に一回くらい	最近二年で一回くらい	最近二年はしていない
A. 美術館や博物館に行く	→	5	4	3	2	1
B. 劇やミュージカルをみる、映画館へ行く	→	5	4	3	2	1
C. クラシックの音楽会、オペラ、バレエに行く	→	5	4	3	2	1

問9. それでは、問7と同じAからGの活動についてコロナ禍前の2年間（2018～2019年頃）はどの程度されていましたか。（○はそれぞれひとつ）

		ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	その二年はしていない
A. スポーツをする	→	5	4	3	2	1
B. カラオケ、ボウリング	→	5	4	3	2	1
C. 小説や歴史の本を読む	→	5	4	3	2	1
D. スポーツ新聞、女性週刊誌をよむ	→	5	4	3	2	1
E. 宝くじを買う	→	5	4	3	2	1
F. パチンコ、麻雀、ギャンブル（競馬など）に行く	→	5	4	3	2	1
G. 図書館に行く	→	5	4	3	2	1

問10. では、問8と同じAからCの活動について、コロナ禍前の2年間（2018～2019年頃）はいかがでしたか。あてはまるものをお選びください。（○はそれぞれひとつ）

		月に一回以上	年に数回	年に一回くらい	二年に一回くらい	その二年はしていない
A. 美術館や博物館に行く	→	5	4	3	2	1
B. 劇やミュージカルをみる、映画館へ行く	→	5	4	3	2	1
C. クラシックの音楽会、オペラ、バレエに行く	→	5	4	3	2	1

問11. あなたは以下のしこう品や飲食サービスを、現在どの程度利用していますか。それぞれもっともあてはまるものを1つお選びください。（○はそれぞれひとつ）

		よく利用する とても	よく利用する	時々利用する	どちらとも いえない	あまり 利用しない	めったに 利用しない	全く利用しない
A. コーヒー	→	7	6	5	4	3	2	1
B. お茶（紅茶やハーブティーなども含む）	→	7	6	5	4	3	2	1
C. スイーツ・お菓子	→	7	6	5	4	3	2	1
D. お酒	→	7	6	5	4	3	2	1
E. たばこ	→	7	6	5	4	3	2	1
F. サプリメント	→	7	6	5	4	3	2	1
G. カップ麺・インスタント麺	→	7	6	5	4	3	2	1
H. 外食サービス	→	7	6	5	4	3	2	1
I. スーパーやコンビニの弁当、総菜	→	7	6	5	4	3	2	1
J. 出前、フードデリバリーサービス	→	7	6	5	4	3	2	1

問12. では、問 11 と同じAからJについて、コロナ禍前の2年間（2018～2019年頃）、あなたはどの程度利用していましたか。それぞれもっともあてはまるものを1つお選びください。

(○はそれぞれひとつ)

		全 く 利 用 し て い な か っ た	め つ た に 利 用 し て い な か っ た	あ ま り 利 用 し て い な か っ た	ど ち ら と も い え な い	時 々 利 用 し て い た	よ く 利 用 し て い た	と と も よ く 利 用 し て い た
A. コーヒー	→	7	6	5	4	3	2	1
B. お茶（紅茶やハーブティーなども含む）	→	7	6	5	4	3	2	1
C. スイーツ・お菓子	→	7	6	5	4	3	2	1
D. お酒	→	7	6	5	4	3	2	1
E. たばこ	→	7	6	5	4	3	2	1
F. サプリメント	→	7	6	5	4	3	2	1
G. カップ麺・インスタント麺	→	7	6	5	4	3	2	1
H. 外食サービス	→	7	6	5	4	3	2	1
I. スーパーやコンビニの弁当、総菜	→	7	6	5	4	3	2	1
J. 出前、フードデリバリーサービス	→	7	6	5	4	3	2	1

問13. あなたは現在、以下のしこう品や飲食サービスに、平均して1カ月でどれくらいのお金を使っていますか。ご家族全体の合計ではなく、あなた個人が使う金額をそれぞれお答えください。全く使っていない場合は0円とお答えください。（数字を記入）

		万	千	百	十	一	
A. コーヒー							円くらい
B. お茶（紅茶やハーブティーなども含む）							円くらい
C. スイーツ・お菓子							円くらい
D. お酒							円くらい
E. たばこ							円くらい
F. サプリメント							円くらい
G. カップ麺・インスタント麺							円くらい
H. 外食サービス							円くらい
I. スーパーやコンビニの弁当、総菜							円くらい
J. 出前、フードデリバリーサービス							円くらい

問14. では、問 13 と同じAからJについて、コロナ禍前の2年間（2018～2019 年頃）、あなたは平均して1カ月でどれくらいのお金を使っていましたか。問 13 と同じように、あなた個人が使っていた金額をそれぞれお答えください。（数字を記入）

		万	千	百	十	一	
A. コーヒー							円くらい
B. お茶（紅茶やハーブティーなども含む）							円くらい
C. スイーツ・お菓子							円くらい
D. お酒							円くらい
E. たばこ							円くらい
F. サプリメント							円くらい
G. カップ麺・インスタント麺							円くらい
H. 外食サービス							円くらい
I. スーパーやコンビニの弁当、総菜							円くらい
J. 出前、フードデリバリーサービス							円くらい

問15. あなたは次のような政党や国に対して好意的な気持ちを持っていますか、それとも反感を持っていますか。とても強い好感を持っている場合を 10、とても強い反感を持っている場合を 0 とすると、現在のあなたのお気持ちはどれにあたりますか。それぞれあてはまるものをお選びください。

（○はそれぞれひとつ）

		とても強い反感←→とても強い好感										
A. 自由民主党（自民党）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
B. 立憲民主党	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
C. 公明党	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
D. 日本維新の会	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
E. 日本共産党（共産党）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F. 国民民主党	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
G. 社会民主党（社民党）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
H. NHKと裁判してる党 弁護士法 72 条違反で（NHK 党）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
I. れいわ新選組	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J. 日本	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
K. アメリカ合衆国	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
L. 中華人民共和国（中国）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
M. 大韓民国（韓国）	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
N. ロシア連邦	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問16. あなたは以下のような人びとが、近所に増えることについて賛成ですか、それとも反対ですか。
あてはまるものをお選びください。(○はそれぞれひとつ)

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対
A. 人種の異なる人々 →	5	4	3	2	1
B. 移民や外国人労働者 →	5	4	3	2	1
C. 宗教の異なる人々 →	5	4	3	2	1
D. 同性カップル →	5	4	3	2	1
E. ふだんから外国語を話す人々 →	5	4	3	2	1

ここから、あなたご自身のことについて伺います。

問17. あなたの性別を、教えてください。(○はひとつ)

0. 男性	1. 女性
-------	-------

問18. あなたの年齢を、教えてください。(数字を記入)

歲

問19. あなたは、現在のご自分の健康状態をどう思いますか。(○はひとつ)

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. わるい

問20. あなたが最後に通った学校はどれですか。中退、通学中の学校も含めます。(○はひとつ)

1. 中学校	4. 各種専門学校	7. 大学院（修士課程）
2. 高校	5. 大学（4年制）	8. 大学院（博士課程）
3. 短大・高専	6. 大学（6年制：医歯薬等）	9. その他（具体的に： ）

問21. あなたが現在されている主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。
(○はひとつ)

1. 経営者、役員	8. 内職
2. 常時雇用されている一般従業者	9. 専業主婦／主夫（仕事は全くしていない）
3. 臨時雇用、パート、アルバイト	10. 無職（仕事を探している）
4. 派遣社員	11. 無職（仕事を探していない）
5. 契約社員、嘱託	12. 学生
6. 自営業主、自由業者	13. その他（具体的に：_____）
7. 家族従業者	

【問 21 で 1～8,13 を選択した方(現在仕事をしている方)に伺います。

9～12(現在仕事をしていない方)を選択した方は、問 29 へお進みください】

問22. あなたの現在の主な勤め先は、どのような事業をいとなんでいますか。具体的にお書きください。

複数の事業をいとなんでいる場合は、最も中心的な事業についてお答えください。

派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。

(例) 食品の製造、衣料の卸売、不動産仲介業、総合病院の運営、書籍の出版、旅館経営など

--

問23. あなたは現在、職場でどのような仕事をしていますか。具体的にお書きください。

会社の事業ではなく、あなた自身が担当している職務についてお答えください。

(例) 小学校教員、プラスチック製品(おもちゃ)の製造、人事部で採用事務を担当、スーパーのレジ係、ソフトウェアのプログラミング、野菜の栽培など

--

問24. あなたは、普段 1 日に何時間ほど働いていますか。

主なお仕事 1 つについて、残業、時間外労働も含めてお答えください。(数字を記入)

1 日に

--	--	--

 時間 ※ 24 時間を超えないようにご記入ください

問25. あなたは、普段 1 週間に何日ほど働いていますか。

主なお仕事 1 つについて、休日出勤なども含めてお答えください。(数字を記入)

1 週間に

--

 日 ※ 7 日を超えないようにご記入ください

問26. あなたの現在の主な勤め先の従業員(働いている人)は、会社全体で何人ぐらいですか。

(支社の人数や、家族従業者、パート・アルバイトなども含む)(○はひとつ)

1. 1 人	4. 10～29 人	7. 300～499 人	9. 1000 人以上
2. 2～4 人	5. 30～99 人	8. 500～999 人	10. 官公庁
3. 5～9 人	6. 100～299 人		

問27. あなたは、現在の主なお仕事で、何か役職についていますか。あてはまるものをお選びください。

(○はひとつ)

1. 役職なし	4. 課長、課長相当職	7. その他
2. 監督、職長、班長、組長	5. 部長、部長相当職	(具体的に:)
3. 係長、係長相当職	6. 社長、重役、役員、理事	

問28. あなたは、現在の主なお勤め先で通算して何年くらい働いていますか。出向や休業、退職されていた期間は除いてお答えください。1 年未満の場合は 1 年くらいとお答えください。(数字を記入)

--	--

 年くらい

【すべての方に】

問29. あなたはコロナ禍（2020年以降）において、お仕事に関する変化はありましたか。ただし、同じ企業体や自治体の中での出向、異動、転属と、休職はのぞいてお答えください。（○はひとつ）

1. 変化があった（退職、転職、就職など）
2. 変化はない（コロナ前から今と同じ仕事をしている／コロナ前も今も仕事をしていない）

【問 29 で 1「(コロナ禍で仕事に関する) 変化があった」を選択した方に伺います。

2「変化はない」を選択した方は、問 37 へお進みください

問30. お仕事に関する変化の前にあなたがなさっていた主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれに
あたりますか。(○はひとつ)

1. 経営者、役員
2. 常時雇用されている一般従業者
3. 臨時雇用、パート、アルバイト
4. 派遣社員
5. 契約社員、嘱託
6. 自営業主、自由業者
7. 家族従業者
8. 内職
9. 専業主婦／主夫（仕事は全くしていなかった）
10. 無職（仕事を探していた）
11. 無職（仕事を探していなかった）
12. 学生
13. その他（具体的に： ）

【問 30 で 1～8.13 を選択した方(変化前に仕事をしていた方)に伺います。

9～12(仕事をしていなかった方)を選択した方は、問 37 へお進みください

問31. あなたの当時の主な勤め先は、どのような事業をいとなんでいましたか。具体的にお書きください。

複数の事業をいとなんでいる場合は、最も中心的な事業についてお答えください。

派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。

(例) 食品の製造、衣料の卸売、不動産仲介業、総合病院の運営、書籍の出版、旅館経営など

--

問32. あなたは当時、職場でどのような仕事をしていましたか。具体的にお書きください。

会社の事業ではなく、あなた自身が担当していた職務についてお答えください。

(例) 小学校教員、プラスチック製品（おもちゃ）の製造、人事部で採用事務を担当、スーパーのレジ係、ソフトウェアのプログラミング、野菜の栽培など

--

問33. あなたは、当時1日に何時間ほど働いていましたか。

主なお仕事1つについて、残業、時間外労働も含めてお答えください。(数字を記入)

1 日に

--

 時間 ※ 24 時間を超えないようにご記入ください

問34. あなたは、当時1週間に何日ほど働いていましたか。

主なお仕事1つについて、休日出勤なども含めてお答えください。(数字を記入)

1週間に 日 ※ 7日を超えないようにご記入ください

問35. あなたの当時の主な勤め先の従業員（働いている人）は、会社全体で何人ぐらいでしたか。
（支社の人数や、家族従業者、パート・アルバイトなども含む）（○はひとつ）

1. 1人	4. 10～29人	7. 300～499人	9. 1000人以上
2. 2～4人	5. 30～99人	8. 500～999人	10. 官公庁
3. 5～9人	6. 100～299人		

問36. あなたは、当時の主なお仕事で、何か役職についていましたか。あてはまるものをお選びください。
（○はひとつ）

1. 役職なし	4. 課長、課長相当職	7. その他
2. 監督、職長、班長、組長	5. 部長、部長相当職	（具体的に：　　）
3. 係長、係長相当職	6. 社長、重役、役員、理事	

【すべての方に】

問37. あなたは現在、結婚していますか。あてはまるものをお選びください。（○はひとつ）

1. 未婚（結婚したことがない）	3. 結婚していたが、離別して、現在結婚相手はいない
2. 結婚している（事実婚も含む）	4. 結婚していたが、死別して、現在結婚相手はいない

問38. あなたにはお子さまがいらっしゃるでしょうか。（同居の有無は問いません）（○はひとつ）

0. いない	1. 1人いる	2. 2人いる	3. 3人いる	4. 4人以上いる
--------	---------	---------	---------	-----------

【お子さまがいる方に】

問39. あなたのお子さまについて教えてください。

2人以上いらっしゃる場合は一番年下のお子さまについてお答えください。（○はひとつ）

1. 子どもは小学校入学前	3. 子どもは高校生以上（学生）
2. 子どもは小・中学生	4. 子どもはすでに学校教育を終えた

【すべての方に】

問40. あなた自身を含め、現在同居されているご家族の人数をお答えください。

なお、ペットは家族に含めないでください。（○はひとつ）

1. 1人（一人暮らし）	4. 4人	7. 7人以上（具体的に：　　人）
2. 2人	5. 5人	
3. 3人	6. 6人	

問41. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。（○はひとつ）

1. 持ち家（一戸建て）	4. 賃貸のアパート、マンション
2. 持ち家（分譲マンション）	5. 社宅、寮、官舎
3. 借家（一戸建て）	6. その他（具体的に：　　）

問42. あなたは現在お住まいの地域（小学校区程度でお考え下さい）に何年くらいお住まいですか。
他の地域に転居していた時期を除いた、合計の年数をお答えください。
1年未満の場合は1年くらいとお答えください。（数字を記入）

--	--

 年くらい

問43. あなたには、日ごろから付き合いのある親しい友人が何人くらいいますか。
だいたい結構ですでお答えください。（数字を記入）

--

 人くらい

最後に収入について伺います。調査の性質上、ぜひお答えいただきたい項目です。

問44. 過去1年間の、あなたの「個人の収入」にあてはまるものを、1つお選びください。
年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。
だいたいところで結構です。（○はひとつ）

1. なし	5. 600 万円以上、800 万円未満
2. 1 万円以上、200 万円未満	6. 800 万円以上、1,000 万円未満
3. 200 万円以上、400 万円未満	7. 1,000 万円以上、1,500 万円未満
4. 400 万円以上、600 万円未満	8. 1,500 万円以上

問45. では、過去1年間の、あなたの「ご自身も含めたご家庭全体の収入」にあてはまるものを、1つお選びください。年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。
だいたいところで結構です。（○はひとつ）

1. 1 万円以上、200 万円未満	5. 800 万円以上、1,000 万円未満
2. 200 万円以上、400 万円未満	6. 1,000 万円以上、1,500 万円未満
3. 400 万円以上、600 万円未満	7. 1,500 万円以上
4. 600 万円以上、800 万円未満	99. わからない

【問 29 で 1「(コロナ禍で仕事に関する) 変化があった」を選択した方にお伺いします。】

問46. お仕事に関する変化があった直前1年間の、あなたの「個人の収入」にあてはまるものを、1つお選びください。年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。
だいたいところで結構です。（○はひとつ）

1. なし	5. 600 万円以上、800 万円未満
2. 1 万円以上、200 万円未満	6. 800 万円以上、1,000 万円未満
3. 200 万円以上、400 万円未満	7. 1,000 万円以上、1,500 万円未満
4. 400 万円以上、600 万円未満	8. 1,500 万円以上

調査はこれで終わりです。
ご協力まことにありがとうございました。